

同窓会報

No.29



開学35周年記念講演



学長と名誉博士号取得者

2012

本学の最近の動向

豊橋技術科学大学 35 周年記念事業を終えて



豊橋技術科学大学・学長 榊 佳之

皆様の母校、豊橋技術科学大学は1976年10月に開学し、多数の方々に支えられて成長、発展し、35年を迎えることができました。これを記念して去る11月16日に関係者多数をお迎えして記念式典・記念講演を執り行いました。ここではその当日に私が学長として行った挨拶を基に、本学のこれまでの歩みを振り返ると共に、次の時代に向けた本学の様々な取り組みをご紹介します。同窓生に皆様には本学への思いを新たなものとしていただければ幸いです。尚、式典では使いませんが、私の話のまとめとなる資料をパワーポイントスライドとして添付いたしております。参考にしていただければ幸いです。

本学の歴史はいくつかの特色あるステージに分けてとらえることができます。開学前、地元の方々は東三河に大学をという大きな夢を描いておられました。高等専門学校出身者をより高度人材に育てる大学を全国2か所に設置すると言う政府の方針決定を機に、当時全国の青年商工会議所の会頭であった神野信郎氏を先頭に地域が政官民挙げての熱心な誘致活動を進められ、夢は現実のものとなりました。本学30年史にあります神野様のメッセージの一節には「小さな夢を持つな、大きな夢を持て」とあります。記念式典で本学設立の最大の功労者として神野信郎様に本学の名誉博士第1号を授与いたしました。

開学後の30余年は「成長の時代」、「飛躍の時代」、

「激動と変革の時代」と3つの時代として捉えることができます。1976年10月に永井道雄文部大臣を迎えての開学式典以来、大学としての教育、研究、運営の組織や体制を整備し、らせん型教育システムの構築、国際交流、産学連携、地域連携など今日の本学の基礎が築かれました。これが「成長の時代」です。それに続いて、知識情報工学課程・エコロジー工学課程の新設、産官学連携の拠点「サイエンスクリエイト」の設立、インドネシア高等教育開発計画（HEDS）等の国際貢献・交流事業の活発な展開、2001年の工学教育国際協力研究センター（ICCEED）の設立など活発な展開を見せたのが「飛躍の時代」です。

その後、バブルの崩壊に伴う日本社会の激変の中での国立大学の法人化が決定され、独立した一法人として中期目標・中期計画の策定、組織体制の構築・整備など法人としての基礎を固める一方で、21世紀COEやグローバルCOEの展開、企業からの寄付講座の開設など活発な研究・教育活動を進めてきたのが「激動と変革の時代」です。そして、昨年4月に国立大学法人は第2期の中期目標・中期計画が開始されるのを機に本学は新しい時代に入りました。

日本を取り巻く社会情勢の大きな変化の中で、本学は昨年4月に第2期中期目標・中期計画の開始にあたり、20年後、30年後の社会を見据え、様々な新しい取り組みを開始しました。これは既に先と同窓会報でご紹介しておりますが、その後更に

東日本大震災が起り、日本の復興に向けて大学はより確かな社会的貢献が求められています。このような状況での本学の取り組みを以下にご紹介いたします。

教育面では、既にご報告いたしましたが、西永学長時代から検討されてきた学科再編を実行に移し、これまでの8課程を、日本の基幹産業を支える先端技術分野の3課程と、これからの持続的発展社会へ向けた先導技術分野の2課程に再編し、更に幅広い視野を育てる「総合教育院」を開設しました。また、次の時代に求められるリーダー的人材の養成を目指し、高専からの特別推薦制度による学生の獲得、企業のご協力を得ての「テラーメイド・バトンゾーン教育」など特色ある取り組みを開始しております。

研究面では新研究領域の開拓を目指して「エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS)」を昨年10月に開設しました。そこでは本学が世界に誇るセンサーチップ技術など、本学の先端技術と先端領域が融合する新しい研究を展開しております。EIIRISは本学の研究の世界への発信拠点であります。

一方、社会の抱える諸課題に対しても本学の優れた技術科学を通して貢献すべく高齢者介護を見据えた「人間ロボット共生リサーチセンター」、地域防災に対する「安心安全地域共創リサーチセンター」、環境・エネルギー問題に取り組む「未来ビークルシティーリサーチセンター」、工学と融合した新しい農業の開拓を目指す「先端農業・バイオリ

サーチセンター」等、それぞれの課題に対応した特色あるいくつかのセンターを設置し、地域自治体や企業、関係機関との連携した取り組みを進めております。

また本学はこれまでも国際交流・連携に積極的に取り組んできましたが、この間に築かれた東南アジアを中心とした強力な人脈、ネットワークを生かしつつ、昨年4月より工学教育国際協力研究センター (ICCEED) を含む国際戦略本部を新たに設置し、意欲的な取り組みを開始しております。特に本学で学び、それぞれの母国、社会で活躍をされている留学生同窓生が積極的に本学の国際化に協力いただいていることは大きな喜びです。今回の式典ではそのお一人であるベトナム国家大学工科大学学長のグエン・ゴク・ビン先生をその際立った国際貢献によって本学の名誉博士として顕彰しました。この他にも開学以来の本学の特色である産学連携の一層の強化を目指す産学連携推進本部、「見える技科大」を掲げての広報戦略本部などそれぞれの部局が意欲的な取り組みを進めております。

このように、本学は次代を見据えた様々な取り組みを開始致しました。これらが真に実りあるものとなるには教職員の不断の努力が必要・不可欠ですが、併せて、同窓生の方々のご理解とご支援が欠かせません。挑戦する本学への引き続きのご理解とお力添えをいただきますよう、ここをお願いを申し上げます。


TOYOHASHI

**開学まで:
「大きな夢」の時代**

小さな夢を持つな
小さな夢は我々の血を流したたせない
実現もむづかしいだろう

大きな夢を持つな
大きな夢は我々の血を流したたせない
又、我々が出来ない時に子や孫の時代に必ず
実現してくれるだろう

(豊橋技術科学大学三十年史
特刊「開学30周年」大学開学、心合わせてより)




TOYOHASHI

第1期:「成長」の時代

大学の基盤整備
“技術を科学し、技術を創る”
“技術を究め、技術を創る”

- ・ 学部・修士一貫教育
- ・ 実務訓練の必修化
- ・ 「らせん型教育」の構築
- ・ 博士課程の設置
- ・ 教育・研究センターの設置
- ・ 国際交流: UCバークレー校と大学間協定第一号、海外研修制度
- ・ 産学連携: 東三河産学官交流サロン(昭和59年~)
- ・ 地域連携: 社会人継続教育プログラム
公開講座第1回「らしの中の科学技術」




TOYOHASHI

第2期:「飛躍」の時代

先端技術がひらく
地方都市

- ・ 教育体制の改革:
新課程創設(知識情報工学、エロジ-工学)
博士課程の拡充・再編
- ・ マルチメディア教育事業開始: マルチメディアセンター設置
- ・ 国際協力・連携の活性化:
高等教育開発計画(HEDS)イノベシア)
7E7N工学系高等教育ネットワーク
ICCEEDの設置('01)と国際交流の活発化
- ・ 産学連携の強化: サイエンスイノベーション21計画の展開(昭和61年~)
(株)サイエンスイノベーション(平成2年)サイエンスオープン(平成4年)
(財)東海産業技術振興財団設立(昭和62年)



TOYOHASHI

**第3期:
「激動と変革」の時代**

バブル崩壊と大学の法人化

- ・ 国立大学法人化('04)
学長をトップとする新組織・体制
- ・ 第1期中期目標・中期計画の策定
- ・ 産学連携の強化: 知的財産・産学連携本部の設置、とよはしTLOの設立
- ・ 地域連携の強化: 地域連携室の設置
- ・ 高専との関係の強化: 高専連携室の設置
- ・ 研究の活性化: 21COE、G-COEの展開、リサーチセンター群の設立
- ・ 30周年記念事業: 寄付講座(信金及びOSG)の開設
女子学生宿舎、学生交流会館の開設 など



TOYOHASHI

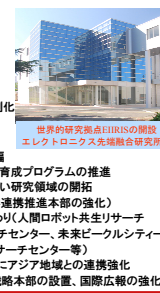
第4期:「新たな挑戦」の時代

H22年度「第2期中期目標・中期計画」

《日本社会の状況の変化》
グローバル化の進展、新興国の台頭、
環境エネルギー問題など地球規模の課題の深刻化
少子・高齢化 など

《本学の新たな挑戦・取り組み》
教育: 新しい時代を見据えた教育組織の再編
時代をリードする卓越した技術科学者育成プログラムの推進
研究: 世界的研究拠点(EIIRIS)の開創と新しい研究領域の開拓
社会貢献: 産学連携への積極的な取り組み(産学連携推進本部の強化)
地域・社会の諸課題への積極的な関わり(人間ロボット共生リサーチセンター、安心安全地域共創リサーチセンター、未来ビークルシティーリサーチセンター、先端農業バイオリサーチセンター等)

国際化: 国際戦略本部の設置と国際連携、特にアジア地域との連携強化
広報: 技科大ブランドの向上を目指して広報戦略本部の設置、国際広報の強化



TOYOHASHI

豊橋技術科学大学の現況

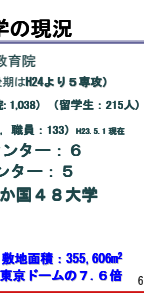
学科数: 5課程(工学部)、総合教育院
5専攻(大学院)(博士後期はH24より5専攻)

学生数: 2,186人(学部:1,148 大学院:1,038)(留学生:215人)

教職員: 344人(役員:6、教員:205、職員:133) H23.5.1現在

研究所: 1, リサーチセンター-センター: 6
戦略・推進本部: 6, 室: 6, センター: 5
海外大学間交流協定: 海外19か国48大学

敷地面積: 355,606㎡
東京ドームの7.6倍



旧第一工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械工学系 関下 信正

機械システム(旧エネルギー)課程および専攻のご卒業生の方々におかれましては、ご健勝のことと存じます。2010年4月の学内再編に伴いまして、旧機械システム工学系と旧生産システム工学系が一緒になり、機械工学系(学部115名/年、修士104名/年)という新しい学科として再編成され、新体制で研究、教育を行っております。併せて長年親しまれた3学期制から2学期制に移行しました。

旧機械システム工学系に関する最近の職員の異動につきましては、2011年3月に教授の上村正雄先生がご定年退職されました。本学の研究・教育のために長い間ご尽力いただき、上村先生には感謝しております。

新聞紙上などで就職難が頻繁に報道されておりますが、本学の就職状況につきましては、旧機械システム工学課程、および、新専攻の機械工学専攻の学生(2012年3月卒業予定)のほぼ全員が8月までに優良企業から内定をいただきました。これもひとえに卒業生の方々のご活躍が社会から高く評価されているお陰です。学生達に代わって深く感謝申し上げます。また、本年も多くの卒業生の方々が採用活動等で大学を訪問して下さい、まことにありがとうございました。在校生にとっては諸先輩方の生の声を聞くことができる貴重な機会となっておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、卒業生の皆様におかれましてはそれぞれの職場でお元気に活躍されることをお祈り申し上げます、近況報告とさせていただきます。

[機械・システムデザインコース]

教授：河村庄造, 足立忠晴

准教授：感本広文, 竹市嘉紀

助教：樋口理宏

[システム制御・ロボットコース]

教授：鈴木新一

准教授：内山直樹

助教：佐野滋則

[環境・エネルギーコース]

教授：野田進, 北村健三, 飯田明由

准教授：中川勝文, 柳田秀記, 鈴木孝司, 関下信正

助教：伊藤高啓, 光石暁彦, 横山博史

[技 官]

徳増学, 神谷昌宏

[事 務]

永田千尋, 野亦真理子

第一工学系同窓会事務局より

H22年度収支報告

収入の部	
前年度繰越金	¥5,532,082
利息(普通預金利子)	¥874
収入合計	¥5,532,956
支出の部	
封筒作成費	¥28,560
アルバイト代	¥10,000
通信費	¥610
支出合計	¥39,170
次年度への繰越金	¥5,493,786

平成 22 年度 内定企業名一覧

平成 22. 11. 11

修 士		
CKD(株)	JFE スチール	関東自動車工業
(株)ソミック石川	日本車両	日本特殊陶業
千代田化工建設	明治製菓	富士機械製造(株)
富士機械製造(株)	博士進学	日清紡ホールディング
新日本製鉄	東海ドック(株)	IHI回転機械
巴川製紙所	ミシュランリサーチアジア	長瀬産業(株)
豊田自動織機	九州旅客鉄道(株)	新日鉄エンジニアリング
武蔵精密工業	自衛隊 1次合格→	JA (全国農業協同組合連合会)
古河電気工業	ミネベア(株)	日本特殊陶業
三菱マテリアルテクノス	日本精工	NTN(株)
山陰酸素工業(株)	任天堂(株)	小松製作所
藤倉電線	シマノ	アルプス電気 (マレーシア)
日本ガイシ	デンソー	ダイキン工業
日陽エンジニアリング	Cパワー	AIHO1
イナックス(株)INAX	IHI	スズキ(株)
ヤマハリビングテック	豊田自動織機	アルファナテクノロジー
川崎重工業	マキタ	アイシンAW
三菱電機(株)	新日鉄エンジニアリング	

学 部
川崎重工業(株)
豊田鉄工(株)
自営業
東京エレクトロン九州
テルモ(株)
公務員 (青森県八戸市市役所)
東海旅客鉄道(株)
エフ・シー・シー
新川電機

第一系工学系同窓会 会長からのご挨拶

宮 本 真 志

(トヨタ自動車(株) 1983年エネルギー工学専攻修了)

I系同窓会の皆様、如何お過ごしでしょうか。

昨年は、日本では東日本大震災や台風、海外でも地震や洪水が発生し、自然災害の多い年でした。震災で尊い命を亡くされた方のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。様々な科学技術が進化してきた現在社会でも、自然の力に適うものは無く、人間の力の果敢なさを改めて感じさせられた一年であったと思うのは私だけではなかったと思います。又、経済面では、これらの自然災害に加え超円高に苦しんだ年でもありました。特に、日本の製造業界は、お家芸とも言える加工産業中心であり、輸出への依存が高く大変苦しい経営状態が続いています。この状況が長く続けば、日本のモノづくりが崩壊しかねない危機にあるとも言えます。しかし、日本の産業界は、幾度ものこの様な危機を乗り越え成長を続けて来ましたし、今後もそう有



るべき有りたいと思います。この日本の危機を乗り越える為には、迫ってくる韓国や中国に負けることなく、世界トップレベルの技術力を日本に残す事が不可欠であり、技科大の重要性を再認識すると共に先生方にお礼を申し上げたいと思います。又、企業では、モノづくりが海外にシフトする現状の中、どう人材を育成するか大きな課題を抱えており我々の一層の工夫と努力を求められております。弊社には既に80人を越える技科大出身の仲間が勤務しており、先日、盛大な同窓会「雲雀会」を開催し、技科大仲間が一丸となって、会社・日本の発展に貢献すべく最大限努力する事を固く誓い合った次第です。

最後に、日本の産業界が非常に苦しい状況にある中で、毎年この会報を皆様にお届け出来る事を大変嬉しく思いますと共に、発行にご尽力頂いている関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。又、来年こそは、明るい話題をお届け出来る様、会員の皆様の頑張りに期待したいと思います。

旧第二工学系

豊友会

—for you—

(生産システム工学系同窓会会報)

学内近況報告

三好 孝典

卒業生、修了生の皆様お元気で
しょうか。ご健勝にて、各職場で
ご活躍のことと思います。

さて、今年度(2011年度)は、
学内再編の2年目となっております。
旧1系の機械システム工学系
と旧2系の生産システム工学系が
合併し、新しく新1系の機械工学系となりました。そ
れに伴い、旧2系にあった3つの大講座(生産計画,加工,
材料)は、新1系では4つのコース(システム制御・ロボッ
ト, 材料・生産加工, 機械・システムデザイン, 環境・
エネルギー)になりました。また、研究室名も変更さ
れております。詳しくは表、HPをご覧ください。

現在は旧体制から新体制への過渡期で、両システム
が並列で動いております。そのため学部では、B1, B2
が新機械工学系として在籍しておりますが、B3, B4は
旧生産システム工学系にそのまま所属しております。



[機械・システムデザインコース]

教授：柴田隆行, 森 謙一郎
講師：安部洋平
助教：川島貴弘, 永井萌土
助手：前野智美

[材料・生産加工コース]

教授：伊崎昌伸, 梅本 実, 戸田裕之, 福本昌宏
准教授：戸高義一, 安井利明, 小林正和, 横山誠二
講師：徐 道源
助教：笹野順司, 山田基宏

[システム制御・ロボットコース]

教授：清水良明, 章 忠, 寺嶋一彦
准教授：三宅哲夫, 三好孝典, Batres-Prieto Rafael
助教：今村 孝, 阪口龍彦, 野田善之

[寄附講座]

柴田隆行(兼任教授), 村上良彦(准教授),
堀内 宰(客員教授), 榊田正美(客員教授)

[技術専門職員]

小楠和彦, 椿 正巳

(50音順 平成23年10月現在)

表 新旧対照表

生産システム工学系(旧2系)	機械工学系(新1系)
生産計画学講座 システム制御研究室 システム創製研究室 計測システム研究室	システム制御・ロボットコース システム制御研究室 生産システム研究室 計測システム研究室
材料工学講座 材料機能制御研究室 製錬工学研究室 材料保証研究室	材料・生産加工コース 材料機能制御研究室 薄膜材料研究室 3D/4Dマテリアル強度評価研究室
加工学講座 接合加工研究室 塑性加工研究室 精密加工研究室	界面・表面創製研究室 機械・システムデザインコース 極限成形システム研究室 マイクロ・ナノ機械システム研究室
寄附講座 オーエスジーナノマイクロ加工学講座	寄附講座 オーエスジーナノマイクロ加工学講座

大学院の博士前期課程（修士課程）では、この3月に新系として初の修了生が誕生する予定です。2つの旧系が合併しましたので、およそ120名もの学生が機械工学系の出身として巣立って行きます。ただ、本年度の就職状況は震災の影響もあり、例年になく厳しいものとなっており、この状況は今後も継続する恐れがございます。OB・OGの皆様におかれましては、ぜひ会社の採用活動と後輩への就職指導の両面から、暖かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。

さて、系の近況を報告します。旧生産システム工学系での人事異動としては、H23年3月に特任助教の野村光由先生が退職され、公益財団法人 科学技術交流

財団の「知の拠点重点研究プロジェクト」統括部研究員に異動されました。また、H23年7月に徐道源先生が東北大学大学院工学研究科エネルギー安全科学国際研究センターから特任講師として3D/4Dマテリアル強度評価研究室に赴任されました。2011年10月現在、旧2系に関係する教員数は教授9名、准教授・講師10名、助教・助手8名となっており（教員表の人数を記載）、学生数はB3が58名、B4が78名となっております。この3年生が卒業しますと、名実ともに生産システム工学系は幕を降ろすことになります。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念して、系の近況報告とさせていただきます。

着任のごあいさつ

機械工学系 特任講師 徐 道 源

2011年7月1日付で日本鉄鋼協会・産発プロジェクト展開鉄鋼研究「4Dイメージング実現による鉄鋼材料研究の飛躍的高度化」の特任講師として着任しました徐道源（ソドウオン）です。平成14年8月に韓国全北大学大学院機械工学博士課程を修了した後に、平成17年9月から 韓国研究財団国外研究員、日本学術振興会外国人特別研究員、教育研究支援者として東北大学大学院工学研究科附属エネルギー安全科学国際研究センターに6年間勤務しておりました。



着任前は、プラズマ溶射や新しいコールドスプレー法などを用い、金属系やセラミック粒子による、高温

強度・耐高温酸化特性に優れたコーティングの開発に関する研究をしました。現在は3D/4Dマテリアル強度評価研究室において戸田裕之教授、小林正和准教授とともにX線トモグラフィーを用いた鉄鋼材料の研究に従事しております。材料の損傷破壊挙動に大きく影響を与える残存気孔やボイドの径、分散形態などの検討は、いままでは断面観察などの2D観察を行うことが一般的な傾向となっておりますが、本研究室にきて、SPring-8の放射光を利用する3D CT技術で、材料破壊挙動やボイド形成メカニズム等を研究するチャンスに恵まれてすごく嬉しいです。本学の一員として、教員、学生とともに、新しく面白い研究を続けたいと思います。今後ともどうぞよろしくごお願い申し上げます。

研究室だより

材料機能制御研究室 近況報告

機械工学専攻 修士2年 足 立 望

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場でご健勝のことと存じます。現在、材料機能制御研究室は教員2名（梅本実教授、戸高義一准教授）、研究員2名、秘書2名、学生26名（博士課程3名、修士課程13名、学部10名）に加えて本年度の10月からはメキシコからの留学生2名を新たに迎え、国際色豊かなメンバーで日々研究に励んでおります。

本研究室では、主に①鉄鋼材料の組織制御・材質予測、②熱電材料の高性能化、③表層加工によるナノ結晶組織の創製、④強ひずみ加工による高密度格子欠陥材料の開発、⑤高圧ねじり加工による高圧相の安定化メカニズムの解明、⑥金属ガラスの塑性加工による高力学機能化、の6つの幅広い分野の材料を対象としたテーマに取り組んでおります。これらの研究成果は、国内外の学術雑誌への論文発表や、学会等へ参加す

ることで、精力的に成果発表を行っております。先日(2011年9月)、鉄鋼協会講演大会が開催され、ポスター発表では修士2年の佐藤君が賞を受賞しました。これらの研究は学内に留まらず、様々な企業、研究所、他大学の方々と共同で研究を行うことで今後の更なる発展が見込まれます。諸先輩方の築き上げてきた功績の賜物でこのような発展が出来たと感謝しております。

研究室内の行事としては、近隣にいらっしゃる卒業生・修了生の先輩方にも参加して頂き、新入生歓迎のお花見、研究室旅行、おでんパーティーのほか、年度末には忘年会や追い出しコンパ等を行っています。そのほかにも系合同のスポーツ大会や、研究室でボーリングに行くなど、研究室メンバーの親睦を深めております。研究室で行ったイベントの様子は研究室のホームページ(<http://martens.me.tut.ac.jp/>)にも随時掲載しておりますので、ご覧ください。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、大変お忙しいと存じますが、豊橋にお越しになる機会がございましたら、是非研究室にお立ち寄りください。研究室

一同、お待ちしております。その際には、卒業・修了後の大学では経験することが出来ない、仕事を通じての体験談等をお聞かせいただければと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈りするとともに、今後とも材料機能制御研究室をご支援頂きますようお願い申し上げます。



界面・表面創製研究室の近況報告

福本 昌宏・安井 利明・山田 基宏

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。平成22年の学内再編に伴い、機械工学系、材料・生産加工コースの一員になると共に、研究室の名称を「接合加工研究室」から「界面・表面創製研究室」に変更致しました。現在の界面・表面創製研究室のメンバーは、福本昌宏教授、安井利明准教授、山田基宏助教、の3名の教員に加え、村上範子秘書、博士研究員1名、博士課程6名、修士課程19名、学部生8名の総勢38名です。その中にはインド、エジプト、インドネシア、中国、マレーシアの国籍を持つメンバーがおり、国際色豊かになっております。

研究室では、溶射技術に関する基礎現象の解明および機能性皮膜の創製技術に関する研究に加え、コールドスプレー法やエアロゾルデポジション法という、固体粒子を積層させる新しい成膜技術に関する研究についても、近年力を入れて取り組んでおります。また、異種材料の摩擦攪拌接合(FSW)、超硬合金の拡散接合、プラズマ電解酸化(PEO)法など、材料の界面・表面創製技術に関する研究を幅広く実施しております。特にコールドスプレー法と摩擦攪拌接合に関するテーマは、愛知県「知の拠点重点研究プロジェクト(P1 低環境負荷型次世代ナノ・マイクロ加工技術)」に採択されるなど、活発に研究を行っております。また、研究以外についても、夏の研究室旅行などの恒例行事はも

ちろん、系で行っているスポーツ大会にも積極的に参加しています。今年はバスケットボール準優勝のみでしたが、昨年はソフトボールで優勝するなど、スポーツ面でも活躍しております。

2012年には研究室の同窓会を開催する予定です。日程等の詳細が確定しましたら研究室ホームページ(http://isf.me.tut.ac.jp)でお知らせすると共に、メール等でご連絡させて頂く予定です。前回(2009年開催)と同様に多くの卒業・修了生の皆様にご参加頂ければと思います。最後になりましたが、卒業・修了生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室をご支援下さるようお願い申し上げます。



生産システム研究室の近況報告

准教授 Rafael Batres

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？平成22年の学内再編に伴い、研究室の名称を「システム創製研究室」から「生産システム研究室」に変更いたしました。

今年、生産システム研究室のメンバーは、清水 良明教授、バトレス ラファエル准教授、阪口 龍彦助教、中尾 佳子秘書、博士3名、修士14名、学部8名の総勢29名です。研究室は国際色も豊かになって、日本をはじめとして、韓国、ネパール、インドネシア、マレーシア、コロンビア、メキシコの国籍を持つメンバーがいます。また、平成21年4月より神戸大学から阪口 龍彦先生が着任されました。阪口先生は大阪府立大学で博士の学位取得後、神戸大学での助教を経ての赴任となりました。

現在の研究は、ロジスティックスネットワーク設計や運用の最適化、製品ライフサイクルのシミュレーション、サプライチェーンのマネジメント技術、製品普及理論にもとづいたマルチエージェントモデリング、リアクティブスケジューリング、スキップフローショップ型生産のためのスケジューリング、生産管理・運用方策のKAIZEN、最適制御、意思決定支援技術としての多目的最適化、事象事例の知的な活用法、などに取り組んでいます。

研究成果とノウハウを社会に還元するために、学術論文の執筆、国内・国際学会発表の他、企業産学連携プロジェクトなどにも積極的に携わっています。またオーストラリア、ドイツ、イギリス、韓国

の大学などとの国際共同研究も行っております。その他、『Frontiers in Computing Technologies for Manufacturing Applications』(Springer)、『最適工学のすすめ一賢い決め方のワークベンチ』(コロナ社)などの書籍を出版しましたのでぜひご一読ください。

卒業生・修了生の皆様また生産システム研究室に興味のある学生の方々におかれましては、ご多忙かと思いますが豊橋にお越しの際は、是非お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。また、研究室のホームページ(<http://ise.me.tut.ac.jp/>)は常に更新していますのでぜひご覧ください。

最後になりましたが、皆様のご発展、ご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



豊友会事務局から

平成22年度収支報告

収支の部

前年度繰越金	4,542,649
会費(各系分配金)	0
普通預金利息	1,233
収支合計	4,543,882

支出の部

会報等発送作業代	50,484
会報等発送代	163,545
次年度繰越金	4,329,853
支出合計	4,543,882

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
FAX: 0532-44-6690
E-mail: admin_2@tut-ob.org
URL: <http://www.tut-ob.org/dept2/>

会 長	中川 真
副 会 長	安部 洋平
会計担当	前野 智美
会報担当	山田 基宏
名簿担当	今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

旧第三・第四工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

旧電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

旧電気・電子工学系

河野 剛 士

修了生、卒業生の皆様も、ますますご活躍のことと思います。昨年度までは、学内再編に伴った従来3学期制から2学期制への移行、講義時間75分から90分への変更、長期休業日程のシフト等、これまでと勝手が異なり、私たち職員も“身体が慣れない”雰囲気が続きましたが、今年度は再編2年目を迎え、学生も含め再編当初より随分と落ち着いてきました。

昨年の3・11の東日本大震災では、震源地より距離のある本学は大きな被害はありませんでしたが、春期休業で学生の多くが豊橋を離れていることが予測されたため、学生の安否が心配されました。私自身、系学部3年生57人の安否確認を実施、全員無事であることを確認し非常に安心したことを思い出します。震災から数ヶ月経ちますが、系には被災地出身の学生が多く在籍しています。今後も大学を含めて被災地学生への全面的サポートに対応していきます。

さて昨年度に引き続き数名の先生方の異動がありましたのでご連絡します。まず、平成23年4月1日付けで、山口堅三先生が材料エレクトロニクスコース（旧基礎電気電子工学分野）から香川大学工学部へ転出されました。一方で、平成23年3月に高木宏幸先生が材料エレクトロニクスコース、平成23年4月に秋田一平先生が集積電子システムコース（旧電子デバイス工学分野）の助教に就任されました。また、稲田亮史先生が材料エレクトロニクスコースの助教から機能電気システムコース（旧電気システム工学分野）の准教授に昇進されています。また、以前所属されておりました穂積直裕先生（旧電気システム工学分野）が、愛知工業大学から本学工学教育国際協力研究センターの教授（電気・電子情報工学系兼務）に就任されています。

来年度からはいよいよ新系対応での3年次編入学生の受入れが開始され、新系体制への完全移行に向かいます。大学外においても目まぐるしい変化が今後も予想されますが、教職員一同今まで以上に精進し、社会に貢献できる教育・研究活動を引き続き行っていく所存です。

旧情報工学系

菅谷 保 之

卒業生、修了生の皆様方におかれましては、各方面にてますますお元気で活躍されていることと思います。毎年この同窓会報にて紹介してまいりました情報工学系の近況報告も今年度で最後となります。

そして、学科の再編から今年で2年になり来年度からはいよいよ新系（情報・知能工学系）への初めての3年次編入生が入学してまいります。そのため、新課程の講義準備、特に学生実験の準備を進めている最中です。また、昨年度より人間・ロボット共生リサーチセンターが設立され、我々の系からも非常に多くの先生方が参加して活躍しております。

さて、情報工学系では今年は1名の先生の異動がありました。平成23年3月31日をもって計算機工学分野准教授の杉原真先生が九州大学大学院システム情報科学研究准教授として転出されました。

学内再編により大きく変化している大学の環境に適応し、情報工学系のよき伝統を守りながら新たな情報・知能工学系を盛り立てていくために教職員一同これからも豊橋技術科学大学のために教育・研究活動に精進していく所存でありますので、今後もよろしくご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

旧電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆ 旧 電気・電子工学系

〈基礎電気電子工学分野〉

教 授：太田昭男，福田光雄，井上光輝
准 教 授：服部和雄，中村雄一
助 教：高木宏幸

〈電気システム工学分野〉

教 授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史
准 教 授：須田善行，村上義信，稲田亮史
助 教：栗本宗明，千坂光陽，田上英人
技術専門職員：日比美彦

〈電子デバイス工学分野〉

教 授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明
准 教 授：朴 康司，岡田 浩^{※1}，原田八十雄^{※2}，
河野剛士
助 教：高橋一浩，関口寛人，赤井大輔^{※3}
秋田一平，二川雅登^{※4}
技術専門職員：足木光昭

◆ 旧 情報工学系

〈計算機工学分野〉

教 授：中川聖一，藤戸敏弘，井佐原 均
准 教 授：秋葉友良
講 師：小林良太郎，大村 廉
助 教：山本一公，藤原洋志
技術専門職員：片岡嘉孝

〈情報処理工学分野〉

教 授：青野雅樹，三浦 純，栗山 繁
准 教 授：福村直博，菅谷保之
助 教：佐竹純二

〈情報システム工学分野〉

教 授：大平 孝，梅村恭司，中内茂樹
准 教 授：上原秀幸
助 教：永井岳大
手：ウリン トヤ
技術専門職員：宮脇治雄

◆ 事 務 官

斉藤陽子，丸山利美，中根ゆかり，関 美知代

◆ グローバルCOE事務員

橋詰恒雄，杉浦寛子，小林裕子

※1 エレクトロニクス先端融合研究所
※2 グローバル COE 特任
※3 ベンチャービジネスラボラトリー
※4 テーラーメイドバトンゾーン特任

◆ 同窓会役員

〈旧 電気・電子工学系〉

村上義信，河野剛士，稲田亮史，田上英人
E-mail: admin_3@tut-ob.org

〈旧 情報工学系〉

山本一公，秋田一平
E-mail: admin_4@tut-ob.org

平成 22 年度

旧電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

平成 22 年度決算	
■収入の部	
平成 21 年度繰越金	7,942,029
平成 22 年度終身会費入金 (1 名)	10,000
預金利息	1,963
収入合計	7,953,992
■支出の部	
平成 22 年度会報発送費	272,760
平成 21 年度会報発送作業費	148,600
国際学会発表奨励金	200,000
小 計	621,360
次年度繰越金	7,332,632
支出合計	7,953,992

研究室だより

プラズマエネルギーシステム研究室

電気・電子情報工学専攻 修士2年

佐野 幸一郎

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。

現在、プラズマエネルギーシステム研究室は、滝川浩史教授、須田善行准教授、田上英人助教の下、修士20名、学部4年10名の計33名という大勢のメンバーで、日々研究に取り組んでおります。

現在の研究テーマとしましては、プラズマエネルギーシステム研究室内に、プラズマナノマテリアル分室と、太陽エネルギー変換分室の2つを設けまして、プラズマナノマテリアル分室では、「フィルタードアーク蒸着装置を用いた機能性薄膜の合成」「大気圧プラズマ処理」「ナノカーボン材料の合成と応用」に取り組んでおります。また、太陽エネルギー変換分室では、「未来ビークルシティの構築」「農業用日射計測・予測システムの構築」に関する研究に広く取り組んでおります。

「フィルタードアーク蒸着装置を用いた機能性薄膜の合成」に関する研究では、当研究室で開発したフィルタードアーク蒸着装置を用いて、ダイヤモンドライクカーボン膜と複合金属膜の2つのテーマで超硬質膜、多機能膜としての可能性を探り実験に取り組んでおります。「大気圧プラズマ処理」に関する研究では、グライディングアーク装置やPEN-JETアーク装置などを開発し、大気圧下で簡易的にプラズマ処理を施し、表面の改質等への応用について研究を行なっております。

。「ナノカーボン材料の合成と応用」に関する研究では、アーク放電法とCVD法（気相成長法）の両面からナノカーボン材料の大量合成に取り組むとともに、ナノカーボン材料の応用として燃料電池、キャパシタ等の電極材料や電子放出源といった新しい分野にも挑戦しています。

「未来ビークルシティの構築」に関する研究では、当研究室で設計したEVやその関連システムを用いて、EVの高効率運用や新たなエネルギー供給システムの提案、自然エネルギーの有効利用法の検討を行い、低炭素社会における持続的発展可能な未来ビークルシティの構築を目指し、日々研究を行なっています。「農業用日射計測・予測システムの構築」に関する研究では、当研究室で開発した日射計測装置を利用し、気象予測や温室農業の自動制御の実現を目指しています。「コージェネ最適運転」に関する研究では、大型商業施設におけるコージェネシステムをより高効率に運転するために、施設全体の需要の把握や予測により、システムの運転を最適化し、省エネ・省コストの実現を目指しています。

現在、研究室のWebサイト(<http://www.pes.ee.tut.ac.jp>)で研究室の情報を公開しておりますので、お時間のあるときにでも、ご覧下さい。また、豊橋方面へ来られた際には、どうぞお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎致します。



先進半導体工学研究室

電気・電子情報工学専攻 修士2年

浦上 法之

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様方におかれましては、大学での経験を糧にますますご活躍のことと思います。

本研究室は、次世代の半導体デバイスの研究を結晶成長からプロセスまで行い、シリコンと化合物半導体の多くの可能性を探求しております。特に、光と電子の融合をコンセプトに、シリコンフォトンクスやセンサシステムの実現に向けた基礎研究およびデバイス展開を進めております。微力ではございますが着実に成果を上げ、学会等で皆様に良いご報告ができることを励みに、研究室一同頑張っていきたいと思っております。加えて私自身は研究活動を通して、英語力を含めた知識、物事の発想力、問題解決に対する適応能力およびコミュニケーション能力など社会に出たら求められるであろう個人能力を養っていかれたらと思います。

研究室行事としては、研究室への新配属教員および学生歓迎会、新体制となった集積電子システムコース合同での歓迎会、夏ゼミお疲れ旅行（旧夏ゼミ旅行）、

忘年会、参加者が少なく今や存続さえ危ういデバイススキー、年度末の追い出しコンパを開催しており、学生にとってもいい息抜きとさせていただきます。私個人の意見としては、旧米津・古川研時代にあったとされる花見を復活させたいと思っております。卒業生・修了生の方々には、連絡のつく限り、夏旅行の日程をお知らせし、ご参加をお声掛けさせていただきますが、ご連絡が遅くなってしまい、申し訳ありません。今後は、早めの連絡を心がけ、ご参加頂いた際には、我われ後輩に社会人としてのアドバイスや体験談などをご指導頂ければと思います。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同お待ちしております。また、研究室の情報はwebサイト (<http://www.int.ee.tut.ac.jp/oeg/>) に公開しておりますので、お時間のある時に目を通していただくと幸いです。最後になりましたが、諸先輩方の今後の益々の御活躍、発展を心よりお祈り申し上げます。



自然言語処理研究室

情報・知能工学専攻 修士1年

楠本 高康

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様につきましては、大学での経験を糧に、それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

現在の自然言語処理研究室は、秋葉友良准教授の下、修士5名、学部4名の総勢9名で日々研究に励んでいます。

本研究室では、人間が日常意思疎通のために用いている自然言語を、話し言葉と書き言葉の両面において、種々の目的のために計算機で処理するための技術を研究しています。主な研究内容としましては、自然言語の質問文を入力として用いて、それに応じた解答をする質問応答システム、自然言語の翻訳を計算機で行う機械翻訳、そして音声ドキュメントから任意の文を検索する音声ドキュメント検索があります。研究成果の発表も盛んに行なっており、言語処理学会や音響学会といった国内の会議だけではなく、今年度イタリアで開催されましたInterSpeechなどの国際会議にも参加しております。そのほかにも、8月に開催されましたオープンキャンパスにて研究室公開を行い、参加者から大きな反響をいただきました。また高専から体験実習生を迎え、機械翻訳の代表的な手法についての講習や、実際に機械翻訳システムを構成する実習を行うなど、外部に向けての活動も積極的に行なっております。

研究室行事としましては、4月に新4年生の歓迎会、8月に中川研究室と合同の研究室旅行が催されました。写真は研究室旅行にて撮影したものです。本年度は、日本二百名山に名を連ねる小秀山に登山してその景勝地を巡り、その

夜は下呂温泉街の旅館にて宴会や花火大会を催し、大いに研究室内外の親睦を深めました。そして、11月に開催される開学記念駅伝大会の参加を予定しております。研究室の情報などは、研究室のWebサイト(<http://www.cl.ics.tut.ac.jp/>)で公開しておりますので、宜しければこちらも御覧ください。

もし豊橋近郊にお越しの際には、どうぞ研究室にお立ち寄りください。在学中や、職場での経験談や助言など頂ければ光栄です。研究室一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、卒業生・修了生皆様方のご健康と、益々のご活躍をお祈りしております。



行動知能システム学研究室

電子・情報工学専攻 博士 1 年

杉 山 淳 一

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

2007 年度に設立され、5 年目の行動知能システム学研究室は、年度を重ねるごとにメンバーが増え、現在、三浦純教授、佐竹純二助教の指導の下、研究員 1 名、博士後期課程 2 名、博士前期課程 9 名、学部 4 名、秘書 1 名の計 19 名で日々研究に取り組んでおります。

本研究室では、知能ロボットなどの、複雑な環境下で自律的に行動できる知能システムを研究しています。具体的な研究テーマとしては、視覚を利用した屋外移動ロボットやナビゲーション、視覚による人物追跡、これを利用した付き添いロボット、不確かさの下での行動計画、環境の地図の自動生成、ロボット作業の対話的教示や人間とヒューマノイドロボットとのインタラクションといった課題に取り組んでいます。これらの研究成果は学内の報告会をはじめ、国際・国内会議へ積極的に論文を投稿し発表を行っております。加えて、動くロボットシステムを扱う研究室ですので、オープンキャンパスなどの研究室公開や見

学の際には実際に付き添いロボットや、視覚を使って物体を認識し掴むロボットなどのデモンストレーションを行い、皆様の前で広く公開しております。機会がありましたら是非ご覧ください。

研究室の行事としましては、年度始めの新入生歓迎コンパに始まり、夏休みの研究室旅行と他研究室と合同のスポーツ大会、学部 4 年の特別研究発表が終わった後の忘年会、年度末の追い出しコンパを開催しており、研究室内の親睦を深めています。

研究内容・発表論文など、より詳細な情報につきましては、本研究室のウェブページ (<http://www.aisl.cs.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、お時間がございましたら、こちらも是非一度ご覧ください。

卒業生・修了生の皆様、豊橋へお越しの際は、本研究室にお立ち寄りいただきますよう、お願い申し上げます。在学時や職場での体験談など、お聞かせいただければ幸いです。研究室一同、お待ちしております。

最後になりましたが、皆様の健康と今後の更なるご活躍を心からお祈り申し上げます。



生体運動制御システム研究室

情報・知能工学専攻 修士1年

猪狩 晋平

卒業生・修了生の皆様方、各々の職場において益々ご活躍のことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

昨年度より、大学の再編に伴い、私どもの研究室の名称が、「システム応用研究室」より「生体運動制御システム研究室」へと変わりました。毎年卒業、修了される方々を見送り、希望と目標を胸に入学する学部生を迎えながら、現在、修士（博士前期）2年が6名、修士1年が3名、学部生が4名で、福村直博准教授の指導の下、研究に勤しんでいます。

本研究室は、ヒトの優れた情報処理能力、特に、認知と運動（腕の運動や対象物の操作、手話など）とその学習機能を研究することを目的に、三次元運動計測器を用いた実際のヒトの運動計測やシミュレーション、そして、人型ロボットを用いた運動モデルの検証などを行なっています。人の知覚や運動、学習の秘密と、ロボットの運動との相互関係を探り、多角的な視点からヒトの運動制御システムを見極めるため、先輩方の研究内容を基盤に、日進月歩、『知り・好み・楽しむ』をモットーに頑張っています。

現在は、ロボットを用いた運動学習モデルの構築や、RHI（ラバーハンド・イリュージョン）と呼ばれる錯覚現象などを通した異種感覚統合の解明、手話認識・学習

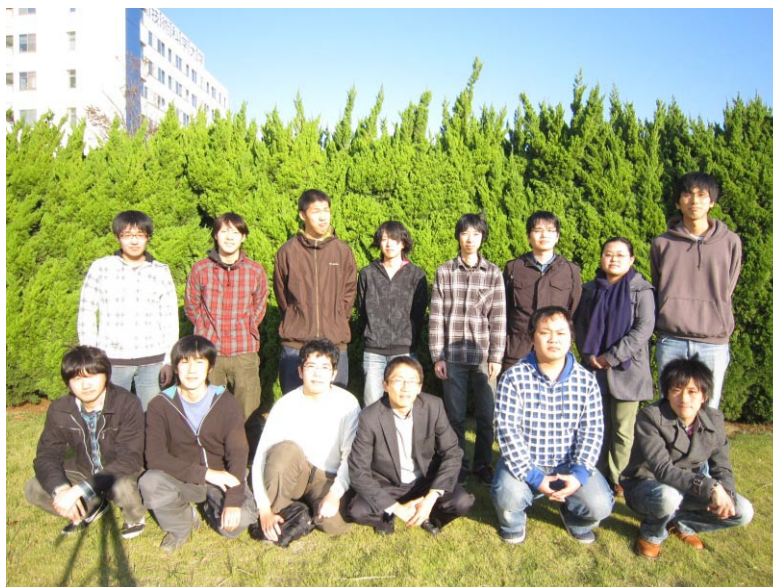
システムの構築の他、ヒトの指揮運動の特性や、道具を用いた運動の学習など、実際に被験者に運動を行なってもらい、その結果を検証する研究にも力を注いでいます。

研究室行事につきましては、春の新入生歓迎会や、年末の忘年会、卒業シーズンの追いコンなどに加え、他の研究室と合同での球技大会や、鍋を囲んでミーティングルームで親睦を深めています。特に研究室メンバーが資金を出し合って購入する、一般知識の元となる書物を回し読みしながら、騒がしくも充実した日々を送っています。

現在、生体運動制御システム研究室のホームページ (<http://www.bmcs.cs.tut.ac.jp/>) では、メンバーについて紹介や研究テーマの情報を公開しておりますので、お時間があれば御覧ください。

最後に、お忙しいとは存じますが、豊橋方面へ来られることがございましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の在学中や卒業、修了後の貴重な体験や、面白おかしいエピソード、進学・就職への助言をいただければありがたく存じます。

最後になりましたが皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。



旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業の一環として、国際学会にて研究成果発表を行う旧3・4系修士課程または、旧3・4系出身(学部時)で電気・電子情報工学または知能・情報工学専攻博士前期課程の学生への奨励金助成(10万円)を行なっております。平成22年度後期ならびに平成23年度前期は、以下の2名に助成を行いましたので、ご報告させていただきます。

(平成23年度後期分につきましては12月中旬より公募予定です。)

平成22年度旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者(後期)

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
応募者なし				

平成23年度旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者(前期)

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
知能・情報 (学部時旧4系)	博士前期課程1年	中川研究室	仲野 翔一	イタリア
電気・電子情報 (学部時旧3系)	博士前期課程2年	長尾・村上研究室	清水 雄哉	メキシコ

国際会議参加報告

電気・電子情報工学専攻 清水 雄哉

2011年11月にメキシコのカンクンで開催された絶縁・誘電現象の国際会議CEIDP 2011に参加し、研究成果をポスター発表してきました。内容としては、経皮吸収テープ内の薬物挙動を、空間電荷測定と赤外吸収スペクトル測定を行い調査したものです。ポスター内容の説明や質疑応答を行う中で、相手に自分の考えをスムーズに伝えることができないことが多々あり、自身の英語力の低さを痛感しました。また、関連研究における最新の情報も収集でき、研究に関する新たなヒントも得ることができました。最後に、旧3.4系同窓会国際学会発表奨励金を採択して頂きましてありがとうございました。

旧第五工学系

物質工学系より

学内近況報告

環境・生命工学系 系長補佐（旧物質工学系担当） 伊津野 真 一

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様すでにご存じのように昨年度、本学は学内再編を行い大幅な組織の変更、系の名称変更などを行いました。新系スタートから1年半が経過し、ようやく軌道に乗り始めたように思います。カリキュラムも新系に合わせて新しいカリキュラムが始まっています。3学期制から2学期制への移行も今のところ順調に進んでいます。今年度編入の学部3年生が最後の物質工学課程の学生ということになります。物質工学という名称が無くなるのは何とも残念ですが、豊橋技術科学大学の新たな飛躍に向けて重要な一歩であることは間違いありません。再編により物質工学課程所属の学生数は次第に少なくなっていますが、ここでは旧物質工学系関連に絞ってご紹介します。



昨年度の同窓会報にも記載しましたが、基本的には旧エコロジー工学系と旧物質工学系が一つの系となり「環境・生命工学系（4系）」が発足しました。大学院修士課程（博士前期課程）はすでに全員が新専攻の所属となっています。博士後期課程についても平成24年度から各新専攻に直結した形で、再編される予定です。授業時間は75分から90分に移行し、だいぶ慣れてきましたが、90分集中力を保つのはなかなか大変です。化学が見えにくい名称ではありますが、本学の化学系の研究、教育の中心は、環境・生命工学系におかれていることは言うまでもなく、来年度は、「環境・生命と化学教育」をテーマに本学主催の全国大学化学系教育研究集会を環境・生命工学系の担当で開催する予定です。

旧物質工学系の教職員は今年度はほぼ変化がなく、

昨年度と同じ配置になっていますが、改めて紹介させていただきます。旧物質工学系の大部分は環境・生命工学系（4系）に移行しており、「未来環境工学コース」と「生命・物質工学コース」の2コースから成り立っています。それぞれのコースは、「先端環境技術分野」と「生態工学分野」、「生命工学分野」と「分子機能化学分野」を含んでいます。先端環境技術分野には松本明彦教授、水嶋生智准教授、佐藤裕久助教、生態工学分野には角田範義教授、大北博宜助手、生命工学分野には吉田絵里准教授、吉田祥子講師、分子機能化学分野には、伊津野真一、竹市力教授、岩佐精二准教授、齊戸美弘准教授、平田幸夫准教授、柴富一孝助教、原口直樹助教、藤澤郁英助手が配置されています。今年度唯一の教員の異動は複合機能材料研究室の河内岳大助教で、今年度7月で退職され、現在は、東京工業大学資源化学研究所にお勤めです。旧物質工学系から他の新系等へ移られた先生方は次の通りです。松田厚範教授、武藤浩行准教授、河村剛助教、服部敏明准教授は「電気・電子情報工学系（2系）」へ、大串達夫教授は総合教育院へそれぞれ移られました。ただし上記の先生方はすべて兼務教員として4系の教育、研究にも携わっていただいております。また、伊藤浩一名誉教授、亀頭直樹名誉教授には今年度も非常勤講師として旧物質工学系の授業をお手伝いいただいております。

以上のように大学の組織は再編により大きく変わりました。旧物質工学系でこれまで培ってきた化学を基礎とする研究、教育の体制は技術科学の中でも重要な分野です。我々はこれをより一層高いレベルへと発展させていかなければなりません。卒業生の皆様におかれましても、新しい環境・生命工学系をぜひご支援いただければ幸いです。

研究室だより

伊津野・原口・藤澤研究室

修士二年 金子 昌広

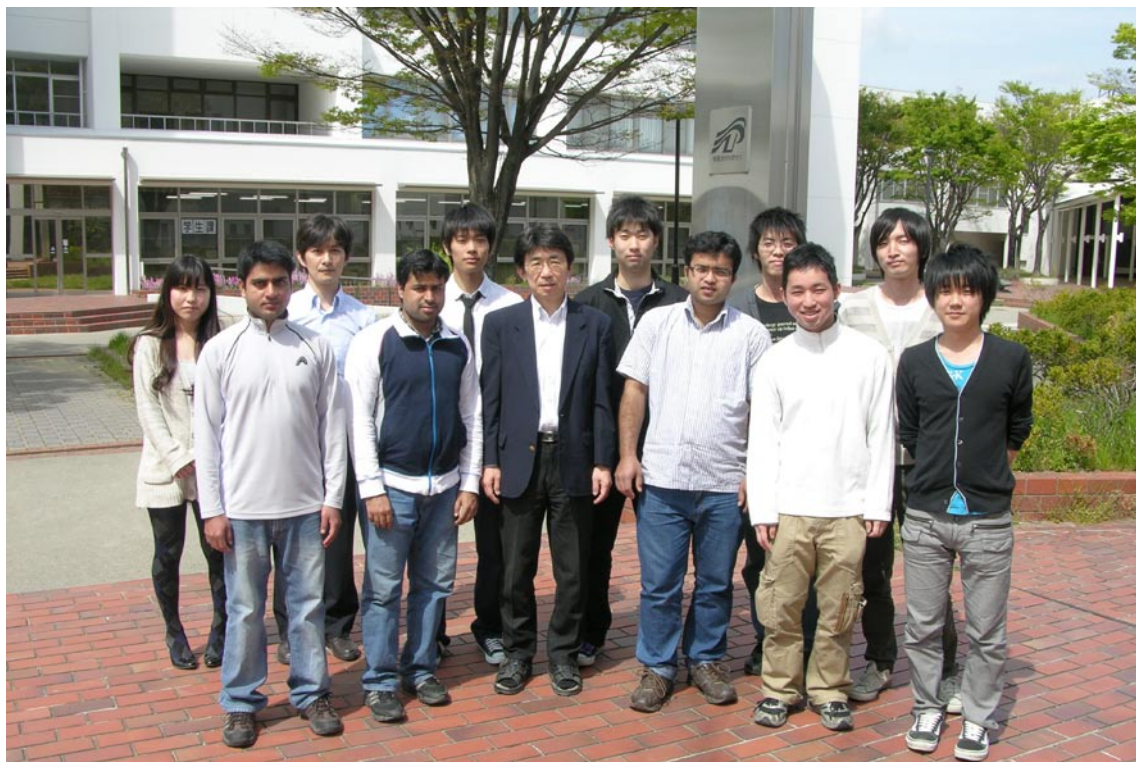
卒業生、修了生のみならず、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方はそれぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。研究室内についてのお知らせの前に助教の原口先生のことについてお知らせします。この度、原口先生がご結婚なされ、研究室一同で祝賀しました。

現在の伊津野・原口・藤澤研究室は、博士一名、修士八名、学部四名で、内日本人九名、留学生四名の計十三名です。みな日々四苦八苦しながら研究に明け

暮れています。現在の当研究室のテーマは「主鎖型触媒の開発」や「軸不斉を持つ触媒の開発」などがあり、研究成果はJACS等のジャーナルに掲載されております。

研究室のイベントと致しましては、毎年行われる仮配属の歓迎ソフトボール大会、夏の研究室旅行、その他にも、送別会などを行い研究室メンバーの親睦を深めております。

皆様ご多忙のことと存じますが、豊橋近郊にお越しの際は是非当研究室にお立ち寄りいただき、先輩方のご活躍をお聞かせ下さい。研究室一同楽しみにしてお待ちしております。最後になりますが、先輩方の更なるご活躍とご健康をお祈り申し上げます。



稲垣道夫教授・創設期学生達と共に（1980年）

吉田(祥)研究室

修士二年 神部 貴仁

生命機能科学研究室（旧称：生命構造機能化学研究室，生化学研究室）の卒業生・修了生の皆様，いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては，日々御健勝のことと存じます。

本研究室は現在，吉田祥子講師とともに修士課程二年6名，修士課程一年2名，学部四年4名，研究生1名，仮配属の学部三年2名，学部二年1名の計17名で，研究室一丸となって日々研究に勤しんでいます。

研究活動については，神経細胞から放出される伝達物質を光学的に測定するデバイスの改良と，新規デバイスの開発を目的とした「デバイス開発チーム」，小脳神経細胞の分化・発達の解明を目的とした「小脳発達チーム」，個々の細胞の分化や細胞機能の調査を目的とした「細胞培養チーム」，細胞の物理的物性から様々な機能を調査する「超音波チーム」，昨年度から発足した糖尿病予防に対する機能性アミノ酸の作用解明を目的とした「膵臓チーム」，基底核における神経伝達観察による病態治療モデル開発を目的とした「脳幹機能チーム」に分かれて研究をしています。デバイスチームで

は食物のアミノ酸分布も観察しており，基底核や膵臓での伝達物質放出を観察するなど，現在は小脳にとどまらず，様々な領域へのアプローチをしています。研究の成果は神経科学学会をはじめとする学会で学外に発表し，他の研究者との交流も積極的に行っています。

本研究室では昨年からは愛知工業大学，本学の電気・電子工学専攻と合同で旧鳳来町の七郷一色にて研究合宿を行っております。違う分野の方からの貴重な意見が聞け，今後の研究に活かせるように各々が懸命に取り組んでいます。

本研究室の情報につきましては，Web site (<http://rodent.ens.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので，御時間のある時に是非一度，御覧いただければ幸いです。現在のメンバーや研究テーマなどが掲載してあります。

卒業生，修了生の皆様方におかれましては大変御忙しいことと存じますが，豊橋へ御越しになる機会がございましたら研究室にお立ち寄りください。研究室一同，心よりお待ち申し上げております。また，その際に，在学中や就職活動，卒業，修了後の貴重なお話を聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら，皆様の今後のさらなる御活躍をお祈り申し上げます。



「七郷一色にて」

大串・佐藤研究室

修士二年 池田 義人

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場にて大いにご活躍のことと存じます。

本研究室では現在、大串達夫教授、佐藤裕久助教のもと修士課程5名、学部生6名の計13名にて日々研究に励んでおります。研究活動に関しましては、大串グループでは「ゼオライト中カチオンの運動の解明」「ゼオライトとマイクロ波の相互作用」「家庭でも再生利用可能な乾燥剤の開発」などをテーマにし、佐藤グループでは「希土類マンガナイト化合物の合成・および熱測定と構造解析」をテーマに推進しております。少人

数グループということもあり、先輩・後輩の枠組みを越えてみんなで協力し合える関係性ができており、また先生方とのディスカッションも気軽に行えるので、内容面でもとても充実しております。

最近の行事としては、9月に研究室旅行を兼ねてメンバーでキャンプを行い、釣りやバーベキューを通して親睦を深めました。また毎年恒例のソフトボール大会では、強固なチームワークで見事優勝することができました。さらに秋には紅葉狩り、冬には鍋パーティーなども続々と企画しております。

皆様ご多忙とは存じますが、豊橋へ来られる機会がございましたらお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。研究室一同心よりお待ちしております。末筆ながら卒業生、修了生皆様のご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



— 旧5系同窓会 会計報告 —

昨年度報告した会計報告は年度の表記が間違えておりました。従いまして、平成20年度は平成21年度、平成21年度は22年度とお読みください。その他の項目は間違えておりません。項目ごとの説明につきましては、昨年度と同様のものは省略させていただきます。

■収入の部	平成22年度予算案	平成22年度決算	平成23年度予算案
前年度繰越金	2,269,796	2,269,796	2,084,964
会費	0	0	0
預金利息	1,000	642	1,000
小計	1,000	642	1,000
収入合計	2,270,796	2,270,438	2,085,964

■支出の部	平成22年度予算案	平成22年度決算	平成23年度予算案
会報郵送料	130,000	125,800	130,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	25,000	23,130	25,000
名入封筒	0	0	0
仕分け作業代	16,000	12,544	16,000
謝礼	14,000	14,000	14,000
名簿管理経費	0	0	0
ホームページ作成・管理費	5,000	0	0
小計	200,000	185,474	195,000
次年度繰越金	2,070,796	2,084,964	1,890,964
支出合計	2,270,796	2,270,438	2,085,964

旧第六工学系

建設工学系より

学内近況報告

教授(系長補佐) 松本 博

未曾有の大災害となった3.11東日本大震災をはじめ、この1年は多くの自然災害や経済状況の変化があり、卒業生の皆様におかれましても直接あるいは間接的に何らかの影響を受けておられるものと思います。そのような困難な状況にもかかわらず、日夜多忙な仕事に精力的に従事されておられることと拝察いたします。一方、本系では大学の教育制度の再編の他、JABEEの継続審査や新しい研究センターの立ち上げなど、これまでにない多くの重要な教育・研究上のミッションを実施してまいりました。その際には、卒業生の皆様にも多大なご協力を頂きました。そのミッションの概要を系内の近況報告として系長補佐の私よりご報告させていただきます。

昨年度は全学で教育制度・組織の再編が実施され、建設工学系(第6工学系)は建築・都市システム学系(第5学系)に変わり、2年目となる今年になってようやくこの名称が浸透してきました。昨年10月には、建築・都市システム学系で建築コースと社会基盤コースの2分野のJABEE継続審査を受審し、無事、6年間の継続認定を受けることができました。JABEE受審に向けた系内準備では、系長・系長補佐の統括の下、建築コースは中澤祥二先生、社会基盤コースは加藤茂先生が取り纏め役となって、多くの手続きや資料確認を行って来ました。実地審査のヒアリングに際しては、多くの卒業生の皆様や在学生の協力を頂き、その結果、本系の教育カリキュラムに対しては非常に高い評価を頂きました。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。また、建築士法改正に伴う建築士受験資格要件が変更され、各専門分野の修得単位数による受験資

教職員一覧

■新任

垣野義典(2011年4月、前職はフィンランド・アアルト大学客員研究員)

■現職

[建築・都市デザイン学分野]

教授：松本 博(系長補佐)、山田聖志、大貝 彰
松島史朗、浜島昭二(兼任)、山本 淳(兼任)
准教授：泉田英雄、浅野純一郎、中澤祥二
真田靖士、増田幸宏、垣野義典
中森康之(兼任)

助教：谷 武、源城かほり、松井智哉、松本幸大
助手：渋谷達郎

[都市・地域マネジメント学分野]

教授：青木伸一(系長)、廣島康裕、河邑 眞、三浦均也
井上隆信、山口 誠、宮田 謙
藤原孝男、木曾祥秋(兼任)

准教授：澁澤博幸、加藤 茂

助教：横田久里子、細野康代

[両分野]

技 官：金田隆文、片岡三枝子

格認定となったことから、修得単位と受験資格要件の確認や、編入学生の単位互換についても確認を進めているところです。学生にとっては、卒業単位、JABEE及び建築士受験資格という3つの単位修得要件を考慮して計画的に学習を進める必要があります。我々教員もその指導に追われております。さらに、4月からは青木伸一系長をセンター長とする安全安心地域共創リサーチセンター(通称CARM)がスタートし、自然災害や環境問題、社会問題に関わる地域の様々なリスクの低減に地域と一体となって取り組んでおります。

さて、この1年間の本系関連の人事異動について紹介いたします。まず、3月に高専との交流人事により本学に赴任されていたOBの辻子裕二先生が1年間の

任期を終え、福井高専に戻られました。また、新任教員として、4月に「構造・空間デザイン領域」の准教授として垣野義典先生がフィンランドのアアルト大学から着任されました。垣野先生は建築計画および居住環境をご専門とされ、海外における研究経験も豊富にお持ちです。また、昨年10月から1年間、本学若手研究者育成プログラムでニュージーランドのカンタベリー大学で海外研修されていた細野康代先生が帰国さ

れ、貴重な経験を報告いただいております。

以上のように、系内の近況についてご報告いたしました。本年度も青木伸一系長以下、教職員それぞれが教育、研究、大学運営、地域貢献活動などに全力で取り組んでおります。卒業生の皆様におかれましては、今後益々ご健康でご活躍されますようお願いいたしますとともに、引き続き本系に対してご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

安全安心地域共創リサーチセンター (CARM) がスタート

建築・都市システム学系 系長・CARMセンター長 青木伸一

2010年の学内再編により建設工学系(6系)は建築・都市システム学系(5系)に改称されました。ようやく新しい体制にも慣れてきたところですが、2011年4月には、これまで本系が中心となって運営してきた地域協働まちづくりリサーチセンター(CCR)に代わって「安全安心地域共創リサーチセンター (Research Center for Area Risk Management)」が発足しました。英語の頭文字をとってCARMと呼んでいますが、「平穩」の意のCalmに語感を似せてネーミングしたものです。CCRでは、大貝センター長のもと、5年間にわたって文科省連携融合事業「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」を推進し、将来の地域づくりへの提言書を取りまとめたところ。これを踏まえ、新しいセンターへの衣替えを2010年の年末頃から議論してきましたが、東海・東南海地震や台風等の自然災害、環境問題や社会問題に関わる地域の様々なリスクの低減に大学として本腰を入れて取り組む必要があるとの考えから、本リサーチセンターの設立に至りました。折しも、センター発足の直前に東日本大震災が発生し、地震・津波防災に対する地域の関心が急速に高まるとともに、センターとしての責任の重さをひしひしと感じているところです。

CARMは、「災害リスク研究コア」、「環境リスク研究コア」および「生活リスク研究コア」の3つの研究



コアから構成されています。災害リスク研究コアでは、地震、津波、高潮、洪水、地盤災害など、様々な自然災害に対する防災・減災を研究対象としています。環境リスク研究コアでは、水や大気の汚染に代表されるような地域の環境に関わるリスクが研究対象です。生活リスク研究コアでは、人の健康に関わる食や住居の問題、さらには過疎化等の地域社会が抱える様々な問題をリスクとしてとらえ、その低減を図るための研究を目指しています。センターはすべての学系から関連する教員が参画していますが、建築・都市システム学系の教員については全員がセンター兼務教員となっております。系を挙げて地域のリスク研究に取り組む所存です。

7月には、室崎益輝関西学院大学教授をお招きし、

キックオフシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、行政関係者、企業関係者および市民とともに、今後の地域防災のあり方等について活発に議論しました。また12月には、企業防災と地域防災をテーマに2回目のシンポジウムを開催しました。

今後は研究成果を上げるとともに、さまざまな機会

を捉えて地域への発信も行っていきたいと考えています。同窓生の皆様には、建築・都市システム学系ともども、新センターについても暖かいご支援を賜れば幸いです。

(<http://ccr.ace.tut.ac.jp/carm/index.html>)

卒業生だより

「経済産業大臣賞（グランプリ）」受賞

増田建築アトリエ 一級建築士事務所 代表 増田 成 政 (16期生)

福岡県大牟田市で建築・造園設計事務所をしている増田と申します。この度、私がリフォーム設計した商家が「住まいのインテリア・コーディネーション・コンテスト 2011」で「経済産業大臣賞（グランプリ）」を受賞することができました。このコンテストは、(社)インテリア産業協会が主催し23回目を数える、歴史ある設計コンテストで、毎回様々な一級建築士が設計手腕を競います。今回は、全国から計685点の応募があり、グランプリ入賞倍率 685倍 という難関の中から、1位に選んで頂けました。

この「増田うなぎ」という建物（私の実家）は、江戸時代に建てられた木造商家で、築200年を超えるとの事で、歴史の長さに正直驚きました。しかし、あち

こち劣化が激しく柱もボロボロな上、複雑な構造で、設計前～完成後も厳しい苦労が続き、設計業務も難解を極めて、何度も心が折れかけました。

設計では、老舗のうなぎ料理店として、旧三池街道の景観にも配慮した上で、江戸古民家の柱・梁をうまく引立て、耐震設計／外観／内観／建具／家具／照明／厨房／庭園に至るまで、トータルかつ丁寧に、難しい設計をまとめ上げた点が、高く評価されました。

今後も「新築／リフォーム／造園／用途・規模 等を問わず、丁寧な設計を行う」というスタイルで、住宅に限らず、店舗や病院・福祉施設、寺院等にも自分の設計を生かしたい、と考えています。



Before (設計前の外観)



After (完成後の外観)

新任教員より

准教授 垣野 義典



2011年4月より建築・都市システム学系准教授に着任いたしました。今回、このような身に余るご縁をいただきましたことに、まずは深く感謝申し上げます。

私は、2001年に東京理科大学理工学研究科建築学専攻修士課程、2004年に東京大学工学系研究科建築学専攻博士課程を修了いたしました。その後4年、東京理科大学理工学部建築学科で助手、助教として勤務した後、約2年半、フィンランドのアルト大学（旧ヘルシンキ工科大学）で研究活動を行って参りました。専門は、建築計画、環境行動という、人間の生活を観察しどのような建築空間が人間の生活にふさわしいかを空間利用者の立場から考察する分野です。特に学校建築や集合住宅を中心に研究を進めており、学校の授業中の教室などで「黒子」のように身を潜めながら、5分に一回平面図に、「誰が・どの空間で・何をしているか」

をスケッチし、そのスケッチをもとに数値化、空間の特質について分析・考察を行います。同時に、日本国内だけでなく、その先進性をもつ北欧・スウェーデンやフィンランド、オランダといった海外の建築空間を継続して研究し、色々な物事を相対的に捉えるよう心がけて参りたいと思っております。

豊橋技術科学大で教育活動を行う上では、学生とともにフィールドワークや行動観察、数週間にわたる海外での実地調査を通し、有用な体験ができる状況作りに努めたいと考えております。何より、「自分で体験して知っていること」が、今後の建築設計や実務活動に欠かせないと考えられるからです。

何分着任してより日が浅く、豊橋市の魅力を体感している最中で、今後色々とお迷惑をおかけする機会もあるかと存じますが、ご高配賜れば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 谷 武 (13期生)

昨年もご説明申し上げましたが、学科再編に伴い、平成21年度より新規入会者の同窓会費を各系に分配せず、全学同窓会の口座で管理することになりました。そのため、分配金が0円になっております。また、これまで同窓会報を郵便にて送付しておりましたが、今回はクロネコヤマトのメール便にて送付したため、同窓会報の郵送費用が昨年に比べて大幅に削減されております。

平成22年9月1日から平成23年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額 (円)
■残 金	
平成22年9月1日現在	2,201,429
■収入の部	
全学同窓会からの会計費の分配金	0
預金利息	298
■支出の部	
全学同窓会報発送作業等費用	56,269
全学同窓会報郵送費用	116,640
■残 金	
平成23年9月1日現在	2,028,818

旧第七工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

情報・知能工学系 系長補佐（知識情報工学担当） 石田 好輝

まず今年起きました3.11東日本大震災とそれによる津波、原発事故により被災された方々へ謹んでお見舞い申し上げます。同窓生の皆様におかれましても、ご無事であれば幸いです。今年は日本だけに目をやっても3.11大震災だけでなく数度の台風や大雨での被害、また海外ではタイの洪水やトルコでの地震など枚挙にいとまがありません。近況として、やはり3.11大震災の影響からご報告したいと存じます。

3.11当日、F棟の5階居室にいましたが、周期の長いかなり大きな揺れを感じました。私事になりますが、当方は神戸震災も関西で経験しましたので、そのときの記憶が蘇りいやな予感がしました。その予感の通り、地震も津波も目を覆うばかりのもので、その後はemailなどを使っての学生さんの安否確認など情報収集に追われました。7系でも学生や教職員に東北関係者がいますので、かなりの影響がでました。その影響の一つとして、教員の研究課題として災害対策、リスク管理などが新たにテーマとして加わったり、また比重が大きくなってきたこともあると存じます。私自身も、ネットワーク科学やゲーム論などで人は社会的、利得的に繋がっているものと頭では分かっていたつもりでしたが、あらためて事実として思い知らされた次第です。

さて再編後の教育課程の変化に目を向けますと、新しい取り組みとして学部2年次の研究プロジェクトがあります。これは早い時期に研究を体験してもらおうという趣旨（いわゆるミニ卒研）で、幾つかの研究室へ2年次生が配属されて来て、与えられた課題を研究室でこなしていくというものです。今年度はオセロゲームを仕様も含めて作成していくことになっており

ます。また修士1年次ではシステムデザインプロジェクトがあり、これまでの修士研究の成果を12月にひばりラウンジにてポスターセッションで発表し、教員とディスカッションします。

7系でも震災の影響は少なからずございましたが、このように再編後の新3系としての様々な取組みで、社会に貢献できる人材を育成していこうと教員一同意気込んでおります。同窓の先輩諸氏におかれましても、今後とも知識情報工学課程および情報・知能工学課程・専攻へのご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆様の日頃の知識情報工学課程・専攻へのご支援に感謝し、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

教職員一覧及び学生現員（平成23年10月現在）

【情報科学分野】

教授：増山 繁、石田好輝
准教授：河合和久、村越一支
助教：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

【機能情報工学分野】

教授：新田恒雄、堀川順生、岡田美智男
准教授：金澤 靖、北崎充晃、桂田浩一*
助教：杉本俊二、P. Ravindra S. De Silva

【分子情報工学分野】

教授：関野秀男、高橋由雅
准教授：栗田典之、後藤仁志
講師：加藤博明
助教：墨 智成、志賀元紀

【事務関係】

事務職員：佐野友子、依田和子
技術職員：小西和孝

【学生現員】

学部：1年次 15名⁺、2年次 16名⁺、
3年次 60名、4年次 63名
修士：1年次 101名⁺、2年次 107名⁺

* 国際交流センター所属

⁺ 新3系（情報・知能工学系）所属

新任教員より

情報・知能工学系(高橋研究室)助教 志賀元紀

2011年4月1日付で情報・知能工学系に助教として着任いたしました。岐阜大学工学部応用情報学科、大学院工学研究科応用情報学専攻、同研究科電子情報システム工学専攻(横田康成准教授(現在、教授)研究室)にて学び、学位を取得しました。その後は、京都大学化学研究所バイオインフォマティクスセンターにて、博士研究員(2年間)、その後、助教(3年間)として勤務しておりました。専門分野は、データマイニング(機械学習を含む)、および、これらの技術を分子生物学(ゲノムなど)や化学のデータ解



析に応用する研究です。最近では、データ爆発と言われるほど膨大な量であり、さらに、多様な形式のデータが溢れております。こうした膨大なデータから新規ルールや知識を発見するために、高速かつ頑健なデータ解析法を、最適化やアルゴリズムの研究を取り入れて確立できたらと考えております。着任から半年経ったものの、まだまだ不慣れなことが多く、先生方にご助力いただいておりますが、教育・研究活動を通じて、少しでも本学の発展に貢献していきたいと考えております。同窓会の皆様の御指導・御鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

磯田先生御退職パーティー報告

情報・知能工学系 助教 相田 慎

平成23年3月、豊橋技術科学大学にて、旧知識情報工学系(現情報・知能工学系)教授・磯田定宏先生の退職をお祝いする会を催しました。各世代の卒業・修了生の方々など、磯田研究室同窓生の連絡先を集めることから始まりました。特に、磯田研究室で初代助手を務められた吉田敦先生(現南山大学准教授)私と二人で「磯田研究室の今昔物語」をする予定でしたが、当日は他の急用があつてお越しになれなかったのは大変残念でございました。しかし、当日は平日であつたにもかかわらず、私も指導していた同窓生の方々が石川県や徳島県よりはるばる来て頂きました。また、旧知識情報工学系の現教員の方々にも数多くお集まり頂きました。乾杯の音頭を私が務めた後、旧系の実質的な系長である石田先生のスピーチを賜り、同窓生より退職のお祝いの電報も読み上げることができました。また歓談中

は、磯田先生を交えて旧交を温めることができました。とりわけ、磯田先生の会の最後のスピーチでは、これまで伺い知れなかった学内外でのエピソードも賜ることができたのは誠に幸甚と存じました。

最後に、磯田先生の退職を祝う会にお集まり下さった方々、ならびに磯田研究室全同窓生への感謝の意とお礼を申し上げます。



研究室だより

後藤研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 安齋 祐紀

卒業生・修了生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。後藤研究室は現在、後藤仁志准教授と博士1名、修士7名、学部3名の計12人で構成されております。主な研究内容は、分子動力学法による糖水溶液の立体配座解析、配座空間の球面トポロジー表現法の開発、ペプチドの高速活性予測法、タンパク質活性部位探索法の開発等です。諸先輩方が積みあげてこられた研究成果を礎とし、後藤先生指導のもと、日々研究に励んでおります。

さて、このたび後藤研究室では、恒例の夏の研究合宿として、富士登山を行ってまいりました。記録をたどったところ、後藤研究室では3年に一度くらいの間隔で富士登山を行っているそうで、後藤研OBの方々も一度は富士登山を経験なさられているかと思います。

後藤研究室で伝説として語り継がれているOBの方の「(降りることを考えたら)登らなければよかった」というセリフを聞いてから、我ら富士登山初体験組も相応の準備と覚悟を持って富士登山に挑みましたが、やはり大変厳しい戦いになりました。途中6合目の長さに絶望し、8合目の後の8.5合目に心が折れそうでした。しかし6時間もの登山の結果、後藤先生を含め、なんと12名中11名が頂上まで登りきることができました！(右上写真：登山成功した後藤先生) 下山途中で松原さんが遭難しかけるというアクシデントもありましたが、無事(?) 全員下山でき、富士登山を成功という形で終わることが出来ました。大変貴重な体験が出来たとは思いま



したが、「二度と登りたくないな」というのがメンバーの総意のようです。

研究室の雰囲気はとても良く、気軽に先輩方へ質問が出来るような風通しのよい研究室になっております。卒業生・修了生の皆様は、近くにお越しの際は是非当研究室にお立ち寄りください。そしてできるならば、社会の大変さや、学生のうちにやっておくべきことなど、教えていただければ嬉しく思います。研究室一同、お待ちしております。最後になりましたが、先輩方の更なる躍進とご健康を心よりお祈り申し上げます。(下写真：現後藤研集合写真)



村越研究室の近況

情報・知能工学専攻博士前期課程 1年一同

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。村越研究室は現在、院生7名、学部4名の計11名の学生が所属し、うち1名は語学留学のため海外で活動しております。

本研究室では、学系再編に伴いこれまでの名称であった村越研究室から、計算知能研究室へ名称を変え、村越先生のもとでより一層研究に励んでおります。

計算知能（村越）研究室では、M2の就職・B4の修士への進学も無事決まり、B4は卒論発表・M1はポスター発表・M2は修論発表へ向けて研究を進めています。現在強化学習に関わっているのが4名と偏ってはいますが、月一回担当が廻ってくる週一回のゼミの時には、主に先生からではありますが担当者に対して指摘をして、より良い研究になるようにしております。写真はゼミの始まる前です。先生はマスクをしておりますが、別に風邪というわけではなく、数年前からアレルギーのために普段からマスクをするようになったようです。

今年度は前年度修了生に対して、加わった学生が多かったため5階の研究室だけでは収まりきらず、M1と実験装置の関係でB4の1名だけ2階の研究室で研究



をしています。歓迎会、送別会を除いては、旅行などの研究以外で学生の交流はなく、また上記したように研究室が2階と5階に分かれていますので、他の研究室ほど深い交流はないかもしれませんがそれぞれ研究に励んでおります。

地震などの影響もあり、いろいろと大変な現状の日本ですが、卒業生・修了生の皆様のご活躍で、この状況を打破されることを祈っています。もし、豊橋方面に来られることがありましたら、お気軽に研究室にお立ち寄りください。その際は、ご多忙だとは思いますが、自分たちに、ためになる貴重な話をお聞かせ頂ければうれしいです。最後になりましたが、研究室一同、先輩方のますますのご活躍とご健康をお祈りしております。

7系同窓会収支報告（H22年度）

■ 収入の部

項目	平成22年度決算
前年度繰越金	5,092,530
会費	45,000
預金利息	1,274
収入合計	5,138,804

■ 支出の部

項目	平成22年度決算
会報経費	
会報発送費	87,770
会報発送作業費	32,850
原稿執筆御礼	10,000
東日本大震災義援金※	45,000
小計	175,620
次年度繰越金	4,963,184
支出合計	5,138,804

※旧7系同窓会会計への3件の会費支払い（15,000円×3件＝45,000円）相当額を、日本赤十字社の東日本大震災義援金として寄附させて頂きました（23.3.25振込み）。

旧第八工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

環境・生命工学系 系長 木曾 祥 秋

同窓生の皆様、お元気にご活躍のことと存じます。ご承知のように本学は2010年4月に全学的な学科再編を行いました。それに伴い、旧エコロジー工学系は旧物質工学系とともに「環境・生命工学系（第4工学系）」として再出発し、約2年が経過しました。再編後2年目となる2011年度学部1・2年生は環境・生命工学課程、学部3・4年生はエコロジー工学課程に所属し、博士前期（修士）課程は環境・生命工学専攻に移行しました。2012年3月には環境・生命工学専攻の1期生が修士課程を修了します。2011年7月の3年次編入学の入学試験は「環境・生命工学」課程として実施し、今年4月から3年次の学生は新しいカリキュラムで学習することになります。それに伴い担当教員や時間割の編成に加えて、学生実験の内容の全面的な改変を進めております。まずは例年通り、旧エコロジー工学系の先生方の近況についてご報告いたします。

前号の同窓会報以降の教員の異動につきましては、2011年3月に北田敏廣教授が岐阜工業高等専門学校の校長として転出されました。北田先生は本学創設間もない1979年4月に赴任され、旧建設工学系（現在の建築・都市システム学系）、旧エコロジー工学系、改組後の環境・生命工学系と32年間の長きにわたり本学の教育研究にご尽力いただきました。また2004年度・2005年度には旧エコロジー工学系の系長、そして2010年度は、学科再編後の環境・生命工学系の系長としてご活躍されました。北田先生の転出に伴い、2011年度は木曾が環境・生命工学系の系長を務めることになりました。また浴俊彦教授が前年度に引き続き旧8系担当系長補佐をされています。

旧エコロジー工学系の先生方は、再編後もこれまで同様、活発に教育研究活動を推進しております。質の高い活発な教育研究活動を証明するかのよう、次に示すような受賞等がありました。水野彰教授が2010年11月にプラズマ・核融合学会賞 貢献賞を、2011

年3月には公益財団法人りそな中小企業振興財団と日刊工業産業研究所から産学連携特別賞をそれぞれ受賞しました。5月には旧エコロジー工学系の教授陣が多数執筆に携わった教科書「理工系学生のための生命科学・環境科学」が出版されました。また大門裕之准教授ら4名が平成22年度廃棄物資源循環学会 論文賞を受賞しました（受賞論文：水熱反応による有機性循環資源の液状飼料化）。9月には水野・高島研究室と浴研究室の共著論文が静電気学会論文賞を受賞しました（受賞論文：出芽酵母への大気圧低温プラズマ曝露におけるDNA損傷の検出）。また10月には旧エコロジー工学系と連携して研究を推進している先端農業・バイオリサーチセンターの三枝正彦特任教授が、第6回日本ペトロロジー学会論文賞を受賞しました（受賞論文：北東北地方の代表的な水田土壌の粘土鉱物組成）。また文部科学省科学技術戦略推進費「気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム」のプロジェクトとして、大門裕之准教授を研究代表者とする「バイオマス・CO₂・熱有効利用拠点の構築」が採択されました。また、学生の研究発表についても、2011年3月には環境・生命工学系 静電気応用研究室（水野・高島研究室）博士前期課程 田中良昌さんが、静電気学会春期講演会 優秀賞を受賞しました。旧エコロジー工学系研究室の最新の状況は環境・生命工学系ホームページ (<http://ens.tut.ac.jp>) でご覧いただけます。

旧エコロジー工学系は旧物質工学系と融合することにより、教育・研究において一層の発展ができるものと考えております。旧エコロジー工学課程・専攻の卒業生ならびに博士課程の環境・生命工学専攻の卒業生の皆様には、今後ともご高配ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生諸氏のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

転出教員より

転任ごあいさつ



岐阜工業高等専門学校 校長 北田 敏 廣

2011年4月から、岐阜工業高等専門学校の所属となりました。豊橋技術科学大学では、創設間もない1979年4月に赴任して以来、建設工学系（現在、建築都市システム学系）、エコロジー工学系、改組後の環境・生命工学系と少し場所を変えながら32年間お世話になりました。正直なところ、豊橋に来たころは、このように人生の半ばに及ぶ滞在になるとは想像していませんでしたが、幸い首にならずに今までこられましたこと、歴代学長および諸先輩のご配慮のおかげと感謝しております。10年を過ぎた頃に、同業ではあるけれど別の世界にと言うお誘いもありましたが、変化を好まぬ“のんびりした性分(?)”の故もあり、続けてお世話になりました。豊橋のほかの方々には迷惑だったかもしれませんが、私自身にとっては、正しい選択であったと今は思っています。

さて、豊橋在任中に、幾人かの博士留学生の面倒を見ました。博士号取得を目指す彼らの意欲は概して高く、修学期間も少なくとも3年間はあり、指導教員ともども双方の満足度は高かったように思います。8月の終わりに、そのような学生の一人で、今は米国NOAA (National Oceanic and Atmospheric Administration) のAir Resources Laboratoryでチームリーダーを務めているOBを、ワシントンDC近郊のシルバースプリングスの研究所に訪ねました。香港出身で、中国返還後に両親を米国に呼び寄せるなど、いろいろな苦勞があったようですが、若い東洋系の研究員（韓国2名、中国2名、日本人無し!；いずれも、Univ. Maryland, Georgia Tech., Univ. Iowaなど米国の大学でPh.D.取得）をまとめながら研究を進めている様子で、たのしく思いました。また、もう一人、インドネシアから来ていた学生（現バンドン工科大学教員）については、バンドン工科大学と岐阜高専との間の包括的な交流協定を、11月の私の訪問時に締結す

べく動いてくれています。このように、豊橋時代に関わった学生諸君とのつながりが今も私の活動を展開する力となっており、大学は本当に人を育て、人と交流するための場だと改めて感じています。

ところで、“言わでもがな”ですが、大学では、相手に応じて“意識的に”人を育てないといけなくとも知れませんが、博士課程を経て研究者に育てるのか、修士課程まででその道の専門家（技術者）としてやって行く基礎を鍛えるのか。その意味で“英語コース”の修士課程は、やや中途半端な印象があります。多くの場合、それぞれの本国で学部課程を終えてきますが、まず、これが不ぞろいで、2年間で専門的技術者としての基礎を授けるには基礎学力不足、さりとて、もう少し長い目で見て研究者に育てるにしても、次のステップ（博士課程）への道が必ずしも保証されておらず、時間不足の感があります。結局、しっかり教育して、英語コース2年間で、専門家（技術者）としての基礎を固め、完結する方向に持ってゆくのが本筋かなと思います。以上、豊橋で関係した留学生についての思い出から、思いつくままに書きました。スクーリングに時間をかけると言う、実行はなかなか大変なことを承知の上でのOBとしての提言です。

私は、よく人から、“北田さんはマイ・ペースだから”と言われてきました。褒められているのかと思いましたが、どうも“ちっとは人の振り見て、自分の振りを直したら”という苛立ちの気持ちを、私に伝えたいと言う意が込められているようでもあります。ただ、私も“人の振り”を見ないわけではありません。見た“人の振り”に対する感じ方（あるいは、評価）が人と少し違っているだけなのかも知れません。でも、どのように感じるのかは、“人それぞれ”だからこそ、世の中、面白いのですよね。この気持ちを忘れずに、新しい職務に励んで(?) います。

研究室だより

生物機能工学研究室（平石研究室）の近況

環境・生命工学専攻 M2 松岡 宏行

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。本稿では、生物機能工学研究室（平石研究室）の近況についてご報告致します。現在、当研究室は、平石明教授、山田剛史助教以下、博士課程2名、修士課程11名、学部生6名、特別聴講生2名の21名で活動しています。当研究室では、地球上に数多く存在する、目に見えない「微生物」の力を用いた環境保全、循環型社会の構築に貢献する技術開発を目的として研究を行っています。また、その過程で出会う未だ誰も手にしたことの無い微生物を対象として、その特性などを調べて学名をつけることも行っています。以下に主な研究内容を示します。

①「新規微生物の探索と検出技術開発」

自然界の微生物群集の構造と働きを解明しながら、光合成細菌、硝化菌、好酸性細菌など様々な新規微生物を探索・分離し、特性評価を行い、農業技術や環境バイオテクノロジーへの適用性について研究しています。また、微生物の迅速検出を目的としたDNAマイクロアレイ技術、菌体構成成分を用いた化学的バイオマーカー法、酸化還元指示薬や核酸プローブを用いた蛍光染色法などの技術開発と応用も行っています。

②「生分解プラスチックを利用した高度環境保全型技術の開発」

従来のプラスチック製品の代替物として有望視されているポリ乳酸系生分解性プラスチックを電子供給源として利用する窒素除去技術やエネルギー回収技術の開発を手がけています。この他、生分解性プラスチックが有する吸着特性を利用して、水中の微量汚染化学物質を除去する技術の開発を行っています。

③「メタン発酵プロセスにおける微生物学特性解析」

メタン発酵プロセスは、省エネ・創エネ型の廃水・廃棄物処理技術として認知されています。未知な部分が多い酸発酵、有機酸発酵およびメタン生成に関わる微生物機能を

詳細に明らかにすることにより、プロセス能力の向上およびプロセスの安定化（バルキング回避）につながる新しい制御技術を開発することを目指しています。

④「好酸性硝化プロセスの特性解析」

生物学的廃水処理において硝化は重要なプロセスですが、通常この反応は中性付近で起こり、酸性条件下では阻害されます。本研究では新しく見つかった酸性条件下で硝化を行う微生物群集の特性解析を行なうとともに、酸性硝化プロセスを新しい排水処理技術として開発することを目指しています。

⑤「残留性有機塩素化合物の微生物分解」

POPs（残留性有機汚染物質）、PCB、塩化エテン類などに代表される残留性有機塩素系化合物を脱塩素化あるいは酸化分解する微生物の分離と特性評価を行ない、実用的な生物学的環境修復（バイオレメディエーション）技術を開発することを目指しています。

皆様、ご多忙のことかと存じますが、豊橋にいらした際には是非研究室へお越しください。なお、昨年に研究室ホームページ <http://ens.tut.ac.jp/microbes> を一新致しました。研究内容や研究室行事などを公開しておりますので御覧頂けると幸いです。最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同、心よりご祈念致しております。



旧エコロジー工学系関連教職員一覧（平成24年2月現在）

環境・生命工学系

【先端環境技術分野】

教授：田中三郎, 水野 彰
 准教授：小口達夫, 高島和則, 廿日出好
 助教：栗田弘史
 助手：安田八郎

【生態工学分野】

教授：木曾祥秋
 准教授：後藤尚弘, 大門裕之
 助教：東海林孝幸

【生命工学分野】

教授：浴 俊彦, 菊池 洋, 平石 明
 准教授：田中照通
 助教：梅影 創, 山田剛史

【分子機能化学分野】

教授：辻 秀人

先端農業・バイオリサーチセンター（連携研究室）

特任教授：三枝正彦
 准教授：中鉢 淳
 特任助教：熊崎 忠, 李 凱

技術専門職員：坂井悦子

事務室：小林美和子, 坂上千恵子

旧8系同窓会収支報告（H22年度）

（平成22年4月～平成23年3月分）

■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,663,551
預金利息	719
収 入 合 計	4,664,270

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
会報経費	
会報発送費	97,440
会報発送作業費	11,000
会報発送用ラベルシール代	2,520
小 計	110,960
次年度繰越金	4,553,310
支 出 合 計	4,664,270

旧第九学系

人文・社会工学系より

近況報告

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。旧9系は、平成22年度の学内再編により「総合教育院」として新たに出発しました。その礎を築かれご退職された先生方の中から、今回、五名の先生のご近況をお伝えします。

アイルランドにて

大呂 義雄

40年に及ぶ大学人生活を終えて、残りの生涯に何か出来る出来ないかと模索をしていた時、たまたまインターネットでアイルランドの国立ゴールウェイ大学(NUIGW)が「アイルランド社会加齢学センター」(ICSG)を創設し、2006年初年度の学生を募集していることを知りました。

早速応募し、9月からの授業開始にそろそろ間に合いました。丁度本学の創設期と同様に、しかし今度は学生として創設に関わり、ディプロマ (diploma) を取得しました。現在は首都ダブリンにあるトリニティ・カレッジ・ダブリン校 (TCD) で、「高齢者のスポーツ活動」をテーマに、オーストラリア、日本、アイルランドの高齢者を対象として、その実態の比較・研究をしています。

アイルランドに滞在して、早いものでもう5年が経ちましたが、年中雨の多い天候にも慣れ、自分で洗濯・自炊をして健康に日々を過ごしています。このプロジェクトを早く完成させたいと思っていますが、最近なかなか身体と頭が言うことを聞いてくれません。老体に何度も鞭を入れて、何とかゴールに辿り着きたいと思っています。

このところの生活

寺澤 猛

この所天気さえよければ脚立の上に乗って松の手入れをしています。庭師です。庭には11本の松があって10月からずっとかかりぎりです。庭木の剪定、家庭菜園これが小生の趣味です。草花も苗を買って育てるより、どちらかと云うと種からまいて育てるのが好きです。家庭菜園では無農薬を心がけるので、毎朝野菜の一葉一葉を点検しなければなりません。結構忙しくしています。

海外旅行や国内旅行も段々体力が低下して、最近では近場の温泉に出かけるくらいになりました。年齢とともに体力は低下しますから、何でも思いついたことはその時々にするようにしないと、年齢は後戻りしてくれませんからね。健康には自信があったけれど、退職後自然気胸と中咽頭に悪性のリンパ腫を患いました。ガンは2人に1人と云われる時代ですし、男兄弟5人のうち4人がガンでしたから覚悟はしていましたが、あと何年生きられるのかと覚悟はしました。「死」とどう向き合うか、時々は考えることがありましたがこの時は真剣に考えました。一応治療して3年を経過しましたが、再発は常に覚悟し「死」と向き合っています。一日一日のんびり楽しく生きられるよう、そう思って過ごしています。

もう一つ読書の時間が増えました。最近では「天皇の歴史」全10巻(講談社)「中国近現代史」全5巻(岩波新書)などを読んでいますが、知らされていなかっ

たことが実に多いのに驚いています。読書も結構体力がいるものです。やはり健康第一ですね。

音訳ボランティアと野菜作り

野村 武

一通り録音し終わった本の自己校正をしていたら電話が鳴った。退職者の近況を報告せよとのこと。

生来声が大きく、大声を出すのが好き、それに、多少なりとも地元のお役に立てば、などと殊勝な心がけで音訳を習い始めて11年が経った。軽い気持ちで踏み出したはいいが、音訳の道は予想をはるかに超えて険しく、到達点が見えぬ奥深い道であった。英語より複雑な日本語標準アクセント、無数の難読固有名詞、寄る年波がもたらす滑舌と声質の劣化……。困難は多いが、一人のリスナーが寄せられたメッセージ“Please send the voice of love to us”をいつも心の片隅に置いて、出来る限り続けて行ければと思っている。

さて、もうひとつの楽しみは野菜作り。じつはこの原稿、畑から帰り、ビールを片手に書いているところだ。音訳よりも畑仕事のほうが年季が入っている。美濃加茂市の街はずれ、里山近くの畑へ、週に一度くらい出かける。老夫婦にはいささか遠すぎ広すぎる畑だが、その楽しさと喜びは遠出の苦労より大きい。いま我が家の緑の菜園には、青首大根、聖護院大根、蕪、ほうれん草、わけぎ、芽を出しかけた葱、水菜、白菜……名前が出てこない。そろそろ認知症の兆しか。正月菜が食べごろになる頃はわが喜寿の年も無事に暮れてくれるだろう。

近況報告

尾碕 一志

退職して4年目となります。丁度この機会にこの4年間何をしてきたかを反省の意味も込めて近況をご報告します。

初めに、東京に独りで住む息子の所へ行って食事の用意をしてやろうと、妻に料理の手ほどきを受けようと思いましたが、これが思いのほか難しく、息子は来るなどと言うし、すぐに頓挫してしまい今では食後の片付けの皿洗いをしているだけです。

次に何か趣味を持たなくてはと考え、稲沢で買い求めた花木を庭に色々植えました。ベトナム原産のフラ

バ、常満寺、白玉、玉霞、琴柱、西王母などの椿、紺口ウバイ、平地で難しいと言われるナナカマド、夏越しが困難なミツバツツジ、初春に真っ赤な花を咲かせる霧島ツツジ、花ザクロ、白い花を枝先にちょうど咲かせ始めている箱根空木などです。そのためか、名古屋駅から2キロ程の街中にも関わらず、春先にはメジロは常連で、時に鶯も飛来し、思わず庭に目を凝らすこともあります。

けれども、木を買って植えることは誰でも出来ます。それらを増やし、交配させたりすることの方がより大きな喜びが得られると思ひ、牡丹と花菖蒲に挑戦しようと、目下計画中です。

「晴耕雨読」は夢のまた夢？

伊藤 光彦

退職する前は、あれもしたいこれでもしてみようかなと想っていたのが未だ実現していない、あるいは実現させていないことばかりである。イー・ヨンエに会うため韓国語を学ぶのだと家族に話していたことも忘れ、宝塚歌劇を宝塚まで見に行くのと在職中から言い続けながら未だ出かけていない。これは生来の怠惰な性格に基づく怠惰な生活に戻ってしまったのが大きな要因である。そして、技科大にいたおおよそ30年間よくも緊張感を持って仕事ができたと、環境が大きな影響を与えることを改めて実感し、技科大で教育研究生活を過ごす機会が得られた幸せを感謝している。

このような怠惰な生活に戻れることを神様はお見通しだったのだろう。退職後は研究生活から完全に離れるつもりであったのに、退職する年度に科研による研究テーマが研究補助の対象となり昨年度まで研究の残滓を残すこととなった。退職直後の年度は学会発表をするためタイまで出かけて行った。その数年前のシンガポールでの学会発表のような意気込みは無くなっていた。科研最後の年の昨年は学会発表でオランダの田舎町まで出かけたが、若い頃のような異郷の地での感動は全くない。今更ながら神様はいたずらが好きだなあと思った。

さらに、戒めのためか昨年4月から生まれ育った地区への恩返しの仕事を与えられた。「長」と名のつく業務には一切関わりたくない私の性格からは神様の御心のままにはとはいえない。ボランティアで社会への恩返しをする気は充分あるが、相変わらず人生思うようにいかないものと、あと数カ月の任務を果たしている。

第60回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成23年5月22日(日)・28日(土)・29日(日), 6月18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日),
7月2日(土)・3日(日)・9日(土)・10日(日)・17日(日)・18日(月)

2 場 所 静岡県草薙陸上競技場他19会場

3 幹事大学 愛知教育大学

4 成 績

(男子)

競技種目	大学名	愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	1	10.0	5	4.0	3	6.0	4	5.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0	8	1.0	
2	水泳	6	3.0	3	6.0	1	10.0	2	8.0	7	2.0	8	1.0	4	5.0	5	4.0	
3	硬式野球	3	4.5	3	4.5	2	6.0	1	8.0	5	2.0	5	2.0	5	2.0			
4	準硬式野球																	雨天中止
5	硬式テニス	5	2.5	5	2.5	5	2.5	2	8.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	5	2.5	
6	ソフトテニス	1	10.0	3	6.0			2	8.0	5	4.0	7	2.0	4	5.0	6	3.0	
7	バスケットボール	7	1.0	4	4.0	6	2.0	1	8.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0			
8	バレーボール			6	2.0	5	3.0	1	8.0	7	1.0	3	5.0	2	6.0	4	4.0	
9	卓球	7	1.0	4	4.0	2	6.0	3	5.0	5	3.0	6	2.0	1	8.0			
10	バドミントン	3	6.0	2	8.0	6	3.0	4	5.0	5	4.0	7	2.0	1	10.0	8	1.0	
11	サッカー	1	10.0	8	1.0	7	2.0	3	6.0	4	5.0	6	3.0	5	4.0	2	8.0	
12	ハンドボール	3	5.0	6	2.0	1	8.0	2	6.0	4	4.0			5	3.0			
13	柔道	4	4.0	5	2.0	1	8.0	5	2.0	5	2.0	3	5.0	2	6.0			
14	剣道	5	2.0	3	5.0	2	6.0	1	8.0	5	2.0	4	4.0	5	2.0			
15	空手道	2	8.0	6	3.0	4	5.0	5	4.0	7	2.0	8	1.0	1	10.0	3	6.0	
16	弓道	6	3.0	1	10.0	4	5.0	8	1.0	5	4.0	7	2.0	2	8.0	3	6.0	
17	体操																	オープン競技
18	馬術	3	4.0	6	1.0	1	6.0	5	2.0	4	3.0			2	5.0			
19	アーチェリー	4	2.0	2	4.0	1	5.0	3	3.0					5	1.0			
20	少林寺拳法	1	4.0	3	2.0			2	3.0					4	1.0			
合 計 得 点			80.0		71.0		83.5		98.0		50.0		42.0		99.0		35.5	
男 子 順 位			4		5		3		2		6		7		1		8	

(女子)

競技種目	大学名	愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	1	6.0	4	3.0	5	2.0	2	5.0					3	4.0	6	1.0	
2	水泳	4	3.0	1	6.0	2	5.0	3	4.0					5	2.0	6	1.0	
5	硬式テニス	4	3.0	5	1.5	3	4.0	5	1.5					1	6.0	2	5.0	
6	ソフトテニス	4	3.0	1	6.0			2	5.0					3	4.0			
7	バスケットボール	1	5.0	3	3.0	4	2.0	2	4.0									
8	バレーボール	1	6.0			4	3.0	2	5.0					3	4.0	5	2.0	
9	卓球	6	1.0	4	3.0	3	4.0	1	6.0	5	2.0			2	5.0			
10	バドミントン	5	3.0	2	6.0	4	4.0	3	5.0	6	2.0			1	8.0	7	1.0	
12	ハンドボール																	オープン競技
13	柔道																	オープン競技
14	剣道	1	6.0	3	4.0	5	2.0	4	3.0					2	5.0			
15	空手道	4	3.0			1	6.0	2	5.0					3	4.0	5	2.0	
16	弓道	3	6.0	2	8.0	6	3.0	4	5.0	7	2.0			1	10.0	5	4.0	
17	体操																	オープン競技 (個人戦のみ)
19	アーチェリー																	オープン競技
合 計 得 点			45.0		40.5		35.0		48.5		6.0		0.0		52.0		16.0	
女 子 順 位			3		4		5		2		7		8		1		6	

平成22年度 卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

平成23年12月1日現在

No	就職先	M	B	D
1	ABB(株)			1
2	AGCテクノグラス(株)	1		
3	(株)AIHO	1		
4	(株)ALL CONNECT		1	
5	ASTI(株)	1		
6	BROTHER工業(株)	1		
7	CKD(株)	1		
8	(株)DNP情報システム	1		
9	FDK(株)	1		
10	(株)IDX	1		
11	(株)IHI	3		
12	(株)IHI回転機械	1		
13	(株)INAX	1		
14	JFEスチール(株)	1		
15	JFE電機(株)	1		
16	JRAシステムサービス(株)	1		
17	KKC財団法人近畿健康管理センター		1	
18	KOBE PRECISION TECHNOLOGY	1		
19	MHIエアロスペースシステムズ(株)	1		
20	Miyawo Company Ltd		1	
21	NECネットエスアイ(株)	1		
22	NOK(株)	1		
23	NTN(株)	1	1	
24	NTTアドバンステクノロジー(株)	1		
25	(株)NTTデータCCS	1		
26	NTTドコモ(株)	1		
27	(株)NTTファシリティーズ	2		
28	OKIセミコンダクタ(株)	1		
29	PANASONIC Electronic Devices Malaysia		1	
30	School of Mechanical Engineering Universiti Sains Malaysia			1
31	Samsung Electronics Co			1
32	TANAKAホールディングス(株)	2		
33	TCM(株)	1		
34	Toyo-memory Technology SDN		1	
35	UNIVERSITI MALAYSIA PAHANG			1
36	Universiti Tun Hussein Onn Malaysia			1
37	WDBエウレカ(株)	1		
38	アールスティ(株)	1		
39	アイカ工業(株)	1		
40	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	1		
41	アイシン化工(株)	1		
42	アイシン精機(株)	2		
43	愛知県道路公社	1		
44	愛知時計電機(株)	1		
45	アイテック阪急阪神(株)	1		
46	アイホン(株)	2		
47	アオイ電子(株)		1	
48	青森県庁	1		
49	アサダ(株)	1		
50	(株)浅野保温	1		
51	アスモ(株)	1		
52	(株)アッソーリ	1		
53	アツミ電氣(株)	1		
54	(株)アドバンテージ・サイエンス	1		
55	阿南市役所		1	
56	(株)アマダ	3		
57	アルファテクノロジ(株)	1		
58	(株)アルプス技研	1		
59	安徽理工大学			1
60	安城市役所		1	
61	アンリツ産機システム(株)	1		
62	(株)イーテック	1		
63	石川工業高等専門学校			1
64	いすゞ自動車(株)	2		
65	伊藤光学工業(株)			1
66	井上石灰工業(株)	1		
67	イビデン(株)	1		
68	(株)今仙電機製作所	1		
69	(株)岩間工業所	1		
70	(株)インターネットイニシアティブ	3		
71	(株)インテック		1	
72	(株)ウェーブインパクト			1
73	エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア(株)	1		
74	(株)エフ・シー・シー	2	1	
75	(株)大木家		1	
76	オークマ(株)	1		
77	大阪府立公衆衛生研究所			1
78	大林組	2		
79	岡本(株)		1	
80	(株)奥村組		1	
81	オムロン(株)	1		
82	オムロンソフトウェア(株)	1		

No	就職先	M	B	D
83	(株)オリエンタルランド	1		
84	カークラフトモトヤ		1	
85	(株)科学情報システムズ	1		
86	鹿島建設(株)	1		
87	(株)ガステック		1	
88	(株)加藤建設		1	
89	(株)河合楽器製作所		1	
90	川崎重工工業(株)	1	1	
91	川重岐阜エンジニアリング(株)	1		
92	関西電力(株)	1		
93	関東自動車工業(株)	1		
94	(株)木村教育研究会	1		
95	キヤノン(株)	1		
96	九州電力(株)	1		
97	九州旅客鉄道(株)	1		
98	共栄社化学(株)	1		
99	京三電設工業(株)	1		
100	京セラ(株)	1		
101	協同飼料(株)	1		
102	協同特殊鋼線(株)	2		
103	(株)京都科学	1		
104	(株)きんでん	1		
105	下松市役所	1		
106	クラリアント・ジャパン(株)	1		
107	(株)鴻池組	1		
108	神戸市役所	1		
109	(株)神戸製鋼所	2		
110	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)	1		
111	(株)コベルコ科研	1		
112	(株)小松製作所	1		
113	サーモス(株)	1		
114	サイバーステップ(株)	1		
115	ザインエレクトロニクス(株)	1		
116	(株)サムテック	1		
117	三愛情報(株)		1	
118	山陰酸素工業(株)	1		
119	三栄ハイテックス(株)	1		
120	(株)三共製作所	1		
121	山東省建築文化財局	1		
122	三和油化工業(株)	1		
123	(株)シー・エム・エス	1		
124	(株)シーテック	1		
125	ジェイアール東海建設(株)		1	
126	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)		1	
127	ジェイアール東日本ビルテック(株)		1	
128	ジェイアール東日本メカトロニクス(株)	1		
129	自衛隊	1		
130	(株)ジェイテクト	2		
131	四條畷市役所 建設部 都市計画課	1		
132	静岡県		1	
133	静岡シヤキ精機(株)	1		
134	静岡市役所	1		
135	島津メディカルシステムズ(株)		1	
136	(株)シマノ	1		
137	シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株)	1		
138	首都高速道路(株)	1		
139	(株)ジュビターコーポレーション	1		
140	昭和設計(株)	1		
141	新川電機(株)	1	1	
142	新東工業(株)	1		
143	新日鉄エンジニアリング(株)	3		
144	新日鉄ソリューションズ(株)	1		
145	新日本製鐵(株)	1		
146	新日本無線(株)	1		
147	新菱冷熱工業(株)		1	
148	信和化工(株)			1
149	スズキ(株)	3		
150	住友軽金属工業(株)	1		
151	住友電気工業(株)	1		
152	住友電装(株)	1		
153	セイコーエプソン(株)	1		
154	セーレン(株)		1	
155	(株)セガ	1		
156	(株)関・空間設計	1		
157	セキスイハイム中部(株)		1	
158	世田谷区役所		1	
159	セントラル硝子(株)	1		
160	セントラルトレードジャパン(株)			1
161	象印マホービン(株)	1		
162	(株)ソミック石川	1		
163	第一生命情報システム(株)	1		
164	(株)大京	1		

No	就 職 先	M	B	D
165	ダイキン工業(株)	2		
166	大日本印刷(株)	1		
167	高砂熱学工業(株)	1		
168	タカタ(株)	1		
169	(株)竹中工務店	2		
170	立山科学工業(株)	1		
171	中央発條(株)	1		
172	中国四川申蓉汽车股份有限公司	1		
173	(株)中調技研	1		
174	(株)中電シーティーアイ	1		
175	中部電力(株)		1	
176	千代田化工建設(株)	1		
177	(株)テイジエール		1	
178	鉄建建設(株)	1		
179	鉄道情報システム(株)	1		
180	テルモ(株)		1	
181	電源開発(株)	1		
182	(株)デンソー	2		
183	(株)デンソークリエイト	4		
184	東海ドック工業(株)	1		
185	東海旅客鉄道(株)	4	2	
186	東京エレクトロン九州(株)		1	
187	(株)東京機械製作所	1		
188	(株)東芝	1		
189	東芝ITコントロールシステム(株)	1		
190	(株)東芝セミコンダクター社			1
191	東芝テック(株)	1		
192	東鉄工業(株)	1		
193	東邦ガス情報システム(株)	1		
194	東北電力(株)		1	
195	東横システム(株)	1		
196	戸田建設(株)	1	2	
197	(株)巴川製紙所	1		
198	巴工業(株)	1		
199	(株)巴コーポレーション	1		
200	富山市農業協同組合		1	
201	トヨタ自動車(株)	1		
202	(株)豊田自動織機	4		
203	トヨタテクノカルディベロップメント(株)	2		
204	豊田鉄工(株)		1	
205	豊臣機工(株)	1		
206	国立大学法人豊橋技術科学大学			1
207	豊橋市役所	2		
208	(株)内藤建築事務所	1		
209	長瀬産業(株)	1		
210	中日本建設コンサルタント(株)	1		
211	(株)奈良機械製作所	1		
212	(株)新潟県農協電算センター		1	
213	西日本電信電話(株)	1		
214	西日本旅客鉄道(株)	1		
215	ニチアス(株)	1		
216	日陽エンジニアリング(株)	1		
217	日産自動車(株)	2		
218	日新電機(株)	1		
219	日清紡ホールディングス(株)	1		
220	(株)ニッセイ	1		
221	ニッセイ情報テクノロジー(株)	1		
222	(株)ニデック	1		
223	日本ガイシ(株)	1		
224	日本ガスケット(株)	2		
225	(財)日本環境整備教育センター			1
226	日本機械技術(株)	1		
227	日本ゲームカード(株)		1	
228	地方協同法人 日本下水道事業団	1		
229	(独)日本原子力研究開発機構	1		
230	日本原燃(株)	1		
231	日本工営(株)	1		
232	日本システム開発(株)	1		
233	日本車輻製造(株)	1		
234	日本上下水道設計(株)	1		
235	日本情報通信(株)	1		
236	日本精工(株)	1		
237	日本電話施設(株)	1		
238	日本特殊陶業(株)	2		
239	日本プロセス(株)	1		
240	任天堂(株)	1		
241	ネットフォース(株)	1		
242	ノバシステム(株)	1		
243	(株)乃村工藝社	1		
244	八戸市役所		1	
245	(株)パッファロー	1	1	
246	パナソニック(株)	1		
247	パナソニックストレージバッテリー(株)	1		
248	浜名湖電装(株)	1		
249	浜松ナノテクノロジー(株)	1		
250	浜松ホトニクス(株)			1

No	就 職 先	M	B	D
251	(株)パモウナ	1		
252	(株)ビーエスシー			1
253	日置電機(株)			1
254	東日本電信電話(株)	1		
255	東日本旅客鉄道(株)	1		
256	(株)日立情報システムズ	1		
257	(株)日立製作所	3		
258	(株)日立超LSIシステムズ	1		
259	(株)日立ハイテクインスツルメンツ	1		
260	(株)日立ハイテクノロジー	2	1	
261	(株)日立東日本ソリューションズ	2		
262	日立マクセル(株)	1		
263	(株)日立メディコ		1	
264	日野自動車(株)	1		
265	(株)ヒミカ	2		
266	(株)ヒューマンシステム	1		
267	フィリピン大学 助手			1
268	(株)富士カーボン製造所	1		
269	富士機械製造(株)	2		
270	(株)フジクラ	1		
271	(株)不二越	1	1	
272	藤コンサル(株)	1		
273	富士ゼロックスアドバンステクノロジー(株)	1		
274	富士通(株)	1	1	
275	(株)富士通ゼネラル	1		
276	富士通テン(株)	2		
277	(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ	1		
278	富士紡ホールディングス(株)	1		
279	フタバ産業(株)	1	1	
280	古河電気工業(株)	3		
281	(株)フロム・ソフトウェア	1		
282	北京空間科技信息研究所	1		
283	豊和食品(株)	1		
284	北陽電機(株)	1		
285	ホンザキ電機(株)	1		
286	(株)堀場製作所	1		
287	(株)堀場テクノサービス	1		
288	本田技研工業(株)	1		
289	(株)マキタ	1		
290	町田食品(株)	1		
291	(株)マップクエスト	2		
292	丸紅アクセスソリューションズ(株)	1		
293	マレーシア国立研究所	1		
294	ミサワホーム(株)	1		
295	ミシュランリサーチアジア(株)	1		
296	水谷ペイント(株)	1		
297	三井造船(株)	1		
298	三井ホーム		1	
299	(株)ミットヨ	1		
300	三菱自動車工業(株)	4		
301	三菱重工(株)	3		
302	三菱重工食品包装機械(株)	1		
303	三菱電機(株)	2		
304	三菱電機コントロールソフトウェア(株)		1	
305	三菱電機ビルテクノサービス(株)	1	1	
306	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)	2		
307	三菱マテリアル(株)	1		
308	三菱マテリアルテクノ(株)	1		
309	ミネベア(株)	1		
310	美濃薬業(株)	1		
311	宮野龍治アトリエ		1	
312	武蔵精密工業(株)	2		
313	(株)明治	1		
314	名鉄不動産(株)	1		
315	(株)メカニカルデザイン		1	
316	メタウォーター(株)	1		
317	森永製菓(株)			1
318	ヤマウチ(株)	1		
319	山口大学工学部量子デバイス工学学域			1
320	ヤマザキマザック(株)	1		
321	(株)山下設計	1		
322	ヤマハリビングテック(株)	2		
323	ユニチカ(株)		2	
324	横浜ゴム(株)	1		
325	リーチ麻雀 ドンホー	1		
326	(株)両備システムズ	1		
327	(株)リンクス	1		
328	リンナイ(株)	3		
329	(株)レクザム	1		
330	ローム(株)	2		
331	ローム浜松(株)	2		
332	(株)ロキテクノ	1		
333	ロックペイント(株)	1		
334	(株)ワークスアプリケーションズ	2		
	小 計	332	57	21
	合 計			410

同窓会事務局より会員の皆様へ

同窓会会長就任 ご挨拶

旧4系(情報工学)1期 高嶋 孝明
(IBM東京基礎研究所 ビジネス・ディベロップメント)



この度、在学時代にお世話になった先生の推薦もあって、豊橋技術科学大学全学同窓会の会長をお引き受けいたしました。第1期の卒業生として社会に出て、ふと気づくと間もなく30年もの歳月が経過します。雨風が吹きすさぶ荒涼とした天伯の台地に、不安と期待が思いっきり入り混じった学生と教員と事務の皆が、その一步を一緒に踏み出した時の様子が、今でも昨日のこの様に思い出されます。これは今回初め打ち明けるのですが、私自身は入学後間もなく、時折言いようのない不安感に襲われて下宿の部屋で怯えに涙した時期がありました。今で言えば、メンタル障害という診断になるのでしょうか。当時はその様な症状に対処する知識も情報もなく、どうやって過ごしたのか全く思い出せないのですが、でも、ふと気づくとそのようなことはすっかり消え去っていました。今思い返せば、そんな不安を吹き飛ばしてしまえる、恐れを抱かず突き進める、創立大学の関係者全員をそうさせる見えない大きな力が大学全体にあったのでしょうか。

同窓会会長への就任を受けて、本当に久しぶりに大学のキャンパスを訪れました。そこで真っ先に目に飛び込んできたのは豊富な緑です。創立から数えて35年、その間に樹木は確実に成長して葉が生い茂り、木陰を作り目に癒しを与えてくれているんだなあと、とても清々しい気持ちになりました。そうしながら、当時無我夢中に取り組んでいたこと、達成したこと、挫折したこと、そしてそれらすべてがこの30年間の卒業後の自分自信の糧になっていたのだということを改めて感じました。今日の社会は、世界経済の不安、雇用、環境、セキュリティーの問題など、実に多くのことがのしかかり、情勢が急激に大きく変化しています。だからこそ、以前にもまして、大学時代の過ごし方が大切になるのではないかと思います。一方学生にはこれまで以上の不安とストレスが大きいのしかかってきます。

そのような環境の下で大学の果たすべき役割とその運営は、学長をリーダーとして待たなしで進められています。同窓会会長は大学経営協議会の委員にも就任するため、定期的に会議に参加させて頂いていますが、いかに様々なことが検討され多くの施策が立案され実施されているかを知り、大学関係者皆様のご尽力に敬服している次第です。同窓会の役割は、そうして大学で得た糧をもとにグローバル社会に貢献していけるよう、大学を巣立って厳しい環境に立ち向かう卒業生の絆をつなぎ続けることだと思います。2011年の漢字に選ばれた『絆』、この重みと意義を新たに、同窓会として今後どのように貢献していくのかを改めて考える時だと思います。

現在の全学同窓会の一つの主要な活動は、年一回の本同窓会報の編集と発行、同窓会名簿の管理と会誌の郵送です。しかし今回をもって印刷物としての会報発行と郵送は終了し、今後は電子メディアに変更します。大学から定期的に発信されているメールマガジンを、メールアドレスを登録されている同窓会員に送付する準備も進めています。また、同窓会ホームページは外部の有料サーバーから学内のサーバに移行し、好意で無料にして頂きました。このように、同窓会の仕事の変革と皆様からお預かりした会費の有効的な活用の検討を開始しました。その一つとして、同窓生の交流促進を支援する助成金プログラムも開始しました。予算に限りがありますが、同

窓生の絆を高めるためにぜひ活用してください。また、これはまだ私が個人的に開設した試みですが、Facebookに豊橋技術科学大学同窓会のグループページを作ってみました。賛同いただいた卒業生の好意で投稿が続いていますので、よろしければ登録してご意見を投稿してください。

- 豊橋技術科学大学同窓会ホームページ
<http://www.alumni.tut.jp/>
- Facebook 豊橋技術科学大同窓会 グループページ
<http://ja-jp.facebook.com/groups/TUT.Alumni/>

将来を見据えた同窓会の活動とその活性化に、そして次の世代へ確かなバトンを引き継ぐためにも、技科大教員として残られた同窓生を中心とする役員の皆様とともに頑張っていく決意でございますので、どうぞよろしくお願い致します。

❖❖❖ 同窓会からのお知らせ ❖❖❖

1. 同窓会報のWEB化

平成22年4月に実施された学内再編に伴い、平成24年度以降の会報は全てWeb化し、冊子による発送を取り止めることになりました。したがって、冊子での発送は今回が最後となります。今後は、同窓会ホームページ (<http://www.alumni.tut.jp/>) に同窓会報を掲載しますので、そちらをご覧ください。

2. サーバーの移行に伴うURLの変更

これまで同窓会ホームページのサーバーは、外部業者のレンタルサーバーを利用しておりましたが、大学のサーバーを利用できるようになったことから、平成23年11月に大学のサーバーへ移行しました。新しいURLは (<http://www.alumni.tut.jp/>) です。ブックマークを登録されている方は変更をお願いします。なお、大学のご厚意により使用料を無料に頂きました。

3. 同窓生支援事業（懇親会／パーティー等交流活動開催助成）の創設

昨年の会報で概要をお知らせした同窓生支援事業を本年度から実施することになりました。同窓生の交流促進を図るため、同窓生が10人以上参加して交流活動を行った場合、1人当たり2,000円を上限に助成を行う事業です。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

4. 大学が発信しているメルマガを同窓生にも配信

豊橋技術科学大学広報部会では、報道発表・イベント、学内外の出来事について、学内全教職員向けにメールマガジンを発行しております。5月に行われた学長との懇談会での話し合いにより、今後は同窓生に対しても配信することになりました。現在、配信のための準備をしておりますので、詳細が決まりましたら同窓会のホームページでお知らせいたします。なお、豊橋技術科学大学広報誌「天伯」については、大学のホームページ (<http://www.tut.ac.jp/tempaku/>) から閲覧できます。

..... 同窓会事業報告および予定（平成22年度～平成23年度）

1. 会報の発行

同窓会会報第28号を平成23年2月以降に発行・発送いたしました。印刷部数は11,000部、うち9,650部を会員に発送し、残りは学内関係者への配布と、会報担当、事務局および各系役員の保管、予備としました。平成23年度（今回発送分）も11,000部の発行を予定しております。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成23年3月23日に、豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会と共催で卒業記念パーティーを開催いたしました。平成23年度も例年通り開催する予定です。なお、アイプラザ豊橋は平成24年3月31日をもって閉館になります。

3. 学生活動への援助

本学学生課と共同で学生活動支援（クラブ活動援助）を行いました。詳細は本文をご参照下さい。

4. 役員会の開催

平成23年4月23日に、大学B棟208会議室において役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の活動予定等について話し合いました。詳細は議事録（<http://www.alumni.tut.jp/gijiroku.htm>）をご覧ください。

5. 榊学長との懇談会

平成23年5月30日に、豊橋技術科学大学学長室において榊学長（本会名誉顧問）、稲垣副学長、神野副学長、辻事務局長と、本会の高嶋会長、山本副会長、感本副会長、谷事務局担当との懇談を行い、大学を取り巻く状況、同窓会活動の活性化などについて意見交換を行いました。

平成23年度同窓会役員（平成23年10月現在。所属は旧系で表示）

会 長：高嶋 孝明（日本アイ・ビー・エム株式会社）

副 会 長：山本 一公（豊橋技科大情報工学系）

副 会 長：感本 広文（豊橋技科大機械システム工学系）

事 務 局：谷 武（豊橋技科大建設工学系）

機械システム工学系（1系：会計） 感本広文，関下信正

生産システム工学系（2系：援助活動） 安部洋平，今村 孝，山田基宏，野田善之，前野智美

電気・電子工学系（3系：役員会） 稲田亮史，村上義信，河野剛士，高木宏幸，田上英人

情報工学系（4系：会報） 山本一公，秋田一平

物質工学系（5系：名簿） 佐藤裕久

建設工学系（6系：事務局） 谷 武，松本幸大

知識情報工学系（7系：HP&ML） 酒井浩之，加藤博明，藤島悟志，山田 実

エコロジー工学系（8系：新系対応） 栗田弘史，安田八郎

名 誉 顧 問 豊橋技術科学大学学長 榊 佳久

* 各系役員へのメールは、admin_#@alumni.tut.jp #に系番号を入れてください。

会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

1系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791348
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 773671
加入者名 豊友会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会ホームページの住所変更用フォーム(<http://www.alumni.tut.jp/address.htm>)を利用して、変更内容のご連絡をお願い致します。同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示や削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

お問い合わせ先 同窓会事務局(0532-44-6843) 担当：谷

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名（庶務担当）
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

同窓会平成 22 年度収支報告および平成 23 年度予算案

項 目	平成22年度予算案	平成22年度決算	平成23年度予算案
■収入の部			
入 会 金	2,000,000	1,995,000	2,000,000
会 費	4,000,000	3,990,000	4,000,000
預 金 利 息	10,000	4,923	10,000
会 報 広 告 費	80,000	80,000	80,000
収 入 合 計	6,090,000	6,069,923	6,090,000
前 年 度 繰 越 金	13,512,070	13,512,070	17,740,603
合 計	19,602,070	19,581,993	23,830,603
■支出の部			
会 報 経 費	900,000	1,000,000	1,000,000
役員会経費（役員手当）	65,000	17,000	65,000
庶 務 経 費	50,000	6,260	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	250,000	250,000
学 生 活 動 援 助 金	500,000	500,000	500,000
Web 関 連 経 費	53,130	53,130	53,130
卒業生懇親会開催援助 ^{*1}			600,000
返金1件（入学取消による）		15,000	0
新系対応準備金 ^{*2}			11,860,000
支 出 合 計	1,818,130	1,841,390	14,378,130
次 年 度 繰 越 金	17,783,940	17,740,603	9,452,473
合 計	19,602,070	19,581,993	23,830,603

*1 H23年度役員会にて実施承認

*2 学科再編対応事項として、2009年度以降の会費を新系対応準備金として管理

学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

弓道部

知識情報工学課程 4年 矢野 篤志

この度は弓道部に援助して頂き、誠にありがとうございます。援助金は弓の購入に充てさせて頂きました。今年も新入生が多数入部し、新入生用の弓が不足気味でしたので今回の援助は非常に助かります。部員を代表してお礼申し上げます。

豊橋技術科学大学に弓道部が発足してから今年で4年目となり、本年度は東海地区国立大学体育大会の主幹校を務めることになりました。弓道部初めての大会運営ということもあり非常に苦心しましたが、優秀な部員達のお陰で無事大会を乗り切ることができました。試合の方でも大会運営を手伝いながらも予選を突破し、結果を残すことが出来た選手も居ました。また、今年も豊橋弓道連盟主催の市民スポーツ祭に出場し、一般男子の部で優勝、一般女子の部で2位入賞と、良い成績を残すことが出来ました。これも今までのご支援のお陰かと存じます。

現在は校舎から離れた野依神社弓道場で日、水、金曜の毎週週3回のペースで練習しています。しかしついに学内の弓道場建設計画が進展し、後2、3年の内には学内で毎日のように練習が可能となり、今まで以上の結果が残せる日が来るのではないかと考えています。

まだ発足して日の浅い弓道部ですが、これからも鍛錬を欠かさず、日々精進していきたい所存であります。最後になりますが今年も援助して頂き、誠にありがとうございました。今後とも弓道部をよろしく願い致します。



男子バレーボール部

生産システム工学課程 4年 渡辺 勉

課外活動活性化支援により、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

本年度、男子バレーボール部はテーピングなどの消耗品や、競技に関わる物品、大会の参加に必要な連盟費用を申請させて頂きました。特に、本年度から試合で用いる公式球がモルテン社製のものからミカサ社製のものに変更となりボールの買い替えをしなければならないところ、ご支援により、部員に負担を強いることなく、購入が円滑に進んだことを深く感謝しております。

我々は修士6名、学部16名の計22名で活動し、毎週火・木・土に練習を行い技術の向上に励んでおります。また、他校との練習試合を行うことでより質の高いプレーの習得を目指しています。

本年度はリーグの再編に伴い、参加可能な大会が新たに増えたことにより東海リーグ戦(5部リーグ)・愛知リーグ戦(4部リーグ)の2大会、また、夏場に行われる4つのビーチバレー大会に参加しました。残念ながら成績のほうは去年度以上のものを出すことは出来ませんでした。リーグ戦は現状の階級を維持、ビーチバレーの大会では白谷大会にて入賞することができました。残すところ、リーグ戦の秋大会がありますので、昇格を目指して努力しております。

最後となりますが、支援して下さった同窓会の皆様、同窓会との間をとりもって頂いた学生課の皆様にご挨拶申し上げます。男子バレーボール部の今後の活動にご期待ください。



空手道部

機械工学専攻 1年 林 真 大

この度は私たち空手道部に援助していただき、誠にありがとうございます。援助金は講師への謝金として使わせていただきます。講師には空手道部が創立して以来、長きに渡って豊橋技科大、空手道部の指導をしていただいております。空手道部を支えていただいております。

私たちは毎週月、木、日曜日に稽古をしており、日曜日に講師に来て頂いて、指導を受けています。稽古では初心者が多いということ、大学を卒業してからも空手を続けてほしいということから、基礎稽古を重点的に行っています。稽古は決して楽なものではありませんが、心身共に強くなるために部員一同、精進しています。現在の部員数は5名と決して多くはありませんが、今後も皆様から支援して頂いているということをお忘れずに、精一杯活動していききたいと思います。



バスケットボール部

環境・生命工学専攻 1年 長内 麻記

この度は、我々バスケットボール部へ御支援をいただき、ありがとうございました。部員一同、心よりお礼を申し上げます。バスケットボール部は、現在プレイヤー約30名、マネージャー3名で活動しております。援助金により、バスケットボールやその他備品を購入させていただき、充実した練習を送らせていただいております。



皆様の御支援により、今年度東国体において準優勝を果たすことができました。しかし3年連続の準優勝はうれしくもある反面、大変悔しく、部員一同来年の優勝に向けて練習に励んでおります。具体的には、定期的なミーティングに加え、個人の長期・短期目標を設定し、限られた練習時間の中精一杯努力しております。

来年の優勝に向けて、日々鍛錬に励み活動していく所存にありますので、これからもご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ロボコン同好会

生産システム工学課程 3年 石原 翔

この度は、我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費より活動支援をして頂き、誠にありがとうございます。部員一同心からお礼申し上げます。我々ロボコン同好会は、毎年主に「NHK 大学ロボコン」「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」に参加し、優勝することを目標とした活動を行っています。

2011年に参加した「NHK 大学ロボコン」では、ベスト8を修め、優勝はできなかったものの、アイデア賞と特別賞を頂きました。また、今年度から開催された「とうロボ」にも参加させて頂きました。この大会は「日本のロボコンを強く」していくことを目標とした、東海地区のロボコン技術を向上させるために始められたものです。

援助金は、安定化電源や、ハイトゲージ、箱型定盤、インクジェット複合機、モーターに充てさせて頂きました。これらにより、ロボットの製作効率を上げ、我々が最も重要としている改良と調整、練習の時間が例年以上に有意義なものになると考えております。

現在は、2012年6月に開催される「NHK 大学ロボコン2012」への出場資格を得るため、12月上旬にある一次選考へむけて、学部生25人、修士13人、博士1人の計39人で活動しています。昨年度優勝することのできなかった悔しさをばねに、来年の国内大会での優勝、さらに世界大会での優勝を目標として、今回ご支援頂いたこ



とを忘れず、部員一同、精一杯尽力して参ります。ロボコン同好会の活躍にご期待ください。

軽音楽部 D7sus4

電気・電子工学課程 4年 高橋 大樹

この度は、私たち軽音楽部 D7sus4 に資金援助していただき誠にありがとうございます。今回頂いた援助金は、ギター用アンプのキャビネットの購入費用として使わせていただきました。つい先日行われた豊橋駅前での野外ライブで早速購入した機材を使わせていただき、ライブの方は大成功を収めました。部員一同心からお礼を申し上げます。

私たち軽音楽部 D7sus4 は、今年度の新入生が40人ほど入部したことで部員数が70人を超え、学内のサークルでも1,2位を争うほどのモンスターサークルとなりました。活動内容としては、年に10回ほどライブを行っています。学内ライブは、4月の新入生歓迎ライブから始まり、10月には技科大祭2Daysライブ、3月には卒業生のための追いコンライブなど、年間を通して定期的にライブを行っております。学内でのライブはもちろんのこと、10月に行われる東海地区国立大学文化祭にも参加させていただいています。また、他大学の軽音楽部との合同企画で豊橋駅前での野外ライブを行うなど、活発にサークル活動を行っています。その他にも、新入生歓迎行事やサークルリーダーズ合宿研修などの行事の際には、音響担当として軽音楽部がお手伝いをさせていただいています。

今後もサークル内、学内だけに留まらず、今まで以上に様々な場面で活動していきたいと考えています。



柔道部

機械システム工学課程 4年 景山 奨太

この度は柔道部に援助をしていただき、誠にありがとうございます。部員を代表してお礼申し上げます。今回

の支援金は、今年度よりお呼びしようと考えている講師に対する謝礼金として使わせていただく予定です。また、本学が来年度の東国体の当番校になっているので、それに合わせて道着の刺繍とゼッケンを発注します。

現在柔道部の部員は総勢8人で活動しており、決して多いとは言えない人数で、更に講師がいないといった状況でしたが部員達の努力が功を奏し、今年度の大会成績におきましては、東三河社会人大会にて二段の部の団体優勝と二段の部の個人優勝並びに3位が2人、また東国体にて団体3位と個人3位が1人、と例年よりも頗る良い結果を残すことができました。今年度の大会は全て終わってしまいましたが来年度に向けてこれからも現在の結果に満足することなく、よりよい結果を残せるよう精進していく所存です。

今回のご支援誠にありがとうございました。



硬式テニス部

生産システム工学課程 4年 加藤 啓太

この度は、23年度の課外活動活性化経費により、たくさんさんのテニスボールを買っていただきありがとうございました。硬式テニス部は現在、学部生16名、修士生12名の計28名で活動をしています。今年度は、部員の技術の向上や試合に出て勝つことを目的として毎週月曜日と水曜日の18:00～20:00に練習を行ってきました。



出場する試合としては、団体戦では毎年6月に行われる東海地区国立大学体育大会と、夏の期間中に行われる東海学生テニス連盟リーグ戦があります。また、個人でも東海学生テニス連盟の大会や、一般の大会に参加しています。

このような大会では、新品のボールを用いて試合を行います。しかし、テニスボールは消耗品のため、練習していくうちにボールが劣化してしまいます。そのため、部費でテニスボールを購入して新しくするのはコスト面から見て大変だったのですが、今回テニスボールを購入していただき、普段の練習を試合に近い感覚で行うことができました。そのおかげで、今年度の東国体では4位になることができましたが、この結果に満足せず、来年度は優勝できるようにこれからも練習していきたいと考えています。

トライアスロン部

建設工学課程 4年 中嶋 亮太

この度は課外活動活性化経費による活動援助、部員一同お礼申し上げます。

我々トライアスロン部は現在30名で構成され、バイク練を中心に日々鍛錬しております。2010年度は地元豊橋のトライア



スリートの方々とは“Team ELJI”を結成し、スイム、バイク、ランそれぞれ練習を共にすることで苦しくも楽しく実力を養ってきました。その甲斐あってか2011年度は久しぶりに東海北陸学生トライアスロン選手権にて上位を取め、1名が日本学生トライアスロン選手権（インカレ本戦）出場枠を獲得しました。メインイベントのトライアスロン伊良湖大会は猛威を振った台風12号の影響で中止となりましたが、校内戦開催等を通じ部員同士志気を高め合いながら活動しております。先日の豊橋万場クリテリウムロードレース大会では表彰台を飾りました（エリテューロ：1位、クリテリウム_エリート：3位）。

今回の経費は移動に必要な自動車ルーフキャリア用サイクルアタッチメントを中心とした備品の購入に充

てました。これらを活用しバイクとともに各地のトライアスロン大会やシマノ鈴鹿といった数々のロードレースに参りますので、「豊橋」「技科大」の名を背負った赤いバイクジャージ姿を見かけた際にはお声をかけていただくと幸いです。また技科大トラ部、Team ELJI共にオープンな活動を展開し、地域の方々と練習の場を共有しております。今後ともよろしく願いいたします。

廃線森林鉄道を辿る旅

機械工学専攻 1年 織田 健太郎

このたび、課外活動活性化経費援助を受けることで今年度から活動を開始することができました。今年度は本活性化経費を受け、技科大生向けにネイチャーツアー「ぼっぼ屋さんとゆく 産業遺産 廃線森林鉄道を辿る旅」を2回実施する予定で、その第一回目を2011年11月12日に開催いたします。

技科大生は遠方から豊橋に来ているために三河地域について知らないことも多く、また、知ろうと思ってもなかなか調べない・知ってもなかなか見に行こうともならないことが多いと思います。しかし、いざ外へ出てみると歴史的遺産があり、自然も豊かであるのが三河地域です。この活動の主旨は、廃線森林鉄道を訪ねることにより文明が作り上げてきたものの歴史、遺産と自然との調和、その美しさに触れることと、あまり経験することのできない活動を通して学業以外にも興味を持ってもらいたいという点にあります。また技科大生は全体的に内向的な傾向があるため、本活動に参加することを通して外へと視野を広げることができると思います。

また私自身も、本活動を行うことによりバイトでは経験できない形で人をまとめたり、自然についての知識を深めたり、人に説明する練習の場としたいと考えています。今回の企画では、その協力を秋葉街道ツーリズム推進センター 杉江さん・藤森さんをお願いしております。こういった社会人の方と共に活動することで学生同士とは違う接し方、考え方も身に付けていきたいと思っています。



国際交流クラブ (CALL)

建設工学課程 4年 馬場 美里

私たち国際交流クラブ (CALL) は、豊橋技術科学大学に大勢いる留学生の支援をするために結成されたクラブです。

留学生は、日本語の不自由さや文化のギャップから日本に馴染めない人が多く、学内でも留学生はグループで固まり、日本人学生もやはり日本人のグループで固まっていたのでお互いに近い存在ではありませんでした。また大学には国際交流課という組織がありますが、職員が少なく、留学生全員の支援を親身になってすることが難しいという問題がありました。そこで留学生、日本人学生、大学間に架け橋をするような組織が必要であるというニーズがあったため、学生の立場から留学生を支援するクラブを結成することになりました。

大学との連携も強く、大学主催の留学生のイベントにも参加・手伝いを依頼され、留学生、日本人、大学を上手く繋げる役割を担っています。現在、国際交流クラブには52名の部員が所属しています。週1回のミーティング、語学教室、国際交流パーティ、企業見学会等、様々なイベントの企画等や多くの活動を1年間通して行っています。

今年度の新しい活動としては、特任准教授のリム先生、国際交流センターをはじめとし、各国の留学生と協力して国際交流デーと称し世界のお茶会や世界の運動会などのイベントを開催しました。また、野依保育園、細谷小学校に訪問し地域貢献にも積極的です。今年で発足6年目のCALLは年々進化を遂げ、活発に活動を行っています。



技科大祭実行委員会

生産システム工学課程 3年 宮下 順一

この度は、私たち技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費の支援をしていただき、誠にありがとうございます。

技科大祭実行委員会一同、心よりお礼を申し上げます。

今回ご支援いただいた資金は、技科大祭で使用するステージのレンタル代金として使わせていただきました。このステージは、技科大祭の主な企画を行う場所として技科大祭実行委員が組み立て、技科大祭のメインステージとして活躍しています。第34回を迎えた今年の技科大祭では、本学の学生同士の交流、地域や他大学との交流、そういった“繋がり”を大切にしていこうという思いの元「Link」というテーマを掲げました。そのため、今年の技科大祭では、毎年好評をいただいている芸人公演、ビンゴ大会や本学の文化系サークルによるパフォーマンスに加え、岡崎女子短期大学ダンス部の方を招いてのパフォーマンスをこのメインステージで行い、他大学との繋がりを実現しました。また、その他の企画では、大声コンテストやクイズ大会など、来場された方がその場で参加できる企画を増やし、学生同士や地域との繋がりを持てるようにしました。これらの成果もあり、今年は2000人近くのお客様に来ていただく事ができました。

同窓会の皆様方のご支援により、今年も無事に技科大祭を執り行えました事、重ねてお礼を申し上げます。



硬式野球部

生産システム工学課程 3年 山中 將暢

この度は、硬式野球部にご援助いただきありがとうございます。現在、硬式野球部は学部4年生3名、3年生6名、2年生2名、1年生2名の全部員13名で活動しています。練習日は基本毎日の放課後、土曜日の13時、日曜日の9時からとなっています。練習内容は放課後は講義等で部員が揃わないことも多いので人数にあわせた基礎練習、全部員の揃う土曜日、日曜日には放課後にはできない実戦練習などを行っています。学部3年次編入が多い為、学部1・2年生の部員の確保が難しく、部員数が少なくなりがちですが、少ないなりに工夫して練習を行っております。

主な活動内容としては、昨年度より再加盟した愛知大

学野球連盟の春季リーグ、秋季リーグに加え、7月に行われる東海地区国立大学体育大会の三つの公式戦に出場しています。愛知大学野球連盟へは昨年度より再加入が認められたため、公式戦の数を増やすことができました。再度脱退にならぬよう努力していきたいと思えます。

私たちは、愛知大学野球連盟のリーグ戦において、5部リーグで優勝し、4部リーグへ昇格すること、東国体において好成績を残すことの二つを今後の目標として取り組んでいます。

今回の援助金は愛知大学野球連盟の所属費、バットやボール等の必需品に充てさせていただきました。皆さんの期待に応えられるよう日々努力を重ねていきたいと思えますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。



ボランティア部

情報工学課程 4年 土井 佑也

この度は私たちボランティア部をご支援頂き、ありがとうございました。ご支援いただいた課外活動活性化費は表浜 BLUE WALK 2011 の備品購入費用の一部に充てさせていただきました。

表浜 BLUE WALK とは豊橋から田原に続く約 50km の表浜海岸を清掃する活動です。2007 年から始まり、今年度で 5 回目となった本活動に我がボランティア部もスタッフ、あるいは参加者として積極的に参加していま



す。今年は 8 月 11 日から 20 日までの 10 日間をかけてのべ 700 人を超える参加者およびスタッフにより実施されました。特に大きな問題もなく今年も無事に活動を終えることができました。皆様のご援助の賜物であったと一同感謝しております。

本活動以外にも私たちボランティア部は清掃活動やツリーハウス作り、新たな取り組みではフリーマーケットや献血活動などのさまざまな活動にも取り組んでおります。今後ともボランティア活動という素晴らしい活動を続けていければと思えますので、よろしくお願いいたします。

この度はボランティア部をご支援いただき、本当にありがとうございました。今後ともボランティア部を何卒よろしくお願いいたします。

豊橋日曜学校

電気・電子工学課程 4年 川島 諒

この度は、豊橋日曜学校に援助をいただき、誠にありがとうございました。部員一同心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市とその周辺に在住の知的障害を持った子どもたちとふれあうことを目的としたボランティアサークルです。当日はレクリエーション・工作などを行い、子どもたちと過ごします。皆様からのご支援は、これらの準備・運営に必要な物品に使用させていただきます。

活動日は月に 1 日ですが、安全面などを配慮し、また、子どもたちに楽しんでもらえるように長い時間をかけて準備をします。当日の内容の企画・準備等は時間がかかる作業ではありますが、当日中に子どもたちの元気な笑顔が見られるようにと思ひ、活動しています。子どもたちに楽しんでもらえるような当日をこれからも目指していきたいと思えます。

これからも皆様からのご支援に感謝の気持ちを忘れることなく精一杯活動していきたいと思えます。



模型部 (TuT)

生産システム工学課程 4年 宮崎 悠

この度は、模型部 (TuT) を援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝しております。去年発足いたしました我々模型部 (TuT) ですが、現在は部員 13 名で週 2 回活動しております。今年から、テーマに沿った作品を作る部内コンペを始めるなど、手探り状態ではありますが新たな試みにも挑戦しております。また、インターネット上での活動にも力を入れており、ブログや投稿サイトを通じて活動を外部に発信しております。また、他大学の模型部とも情報交換を通じて交流を行うようになりました。

さて、今回援助していただきました物品は、技科大祭における子供を対象としたプラモデル制作体験会に使用させていただきました。用意していた 40 個のプラモデルが 1 日で無くなってしまった去年の反省を生かし今年が多めに 60 個のプラモデルを用意しましたが、全て子供たちに作ってもらい、多くの子供たちに「モノづくりの楽しさ」を体験していただけたと思っています。

参加していただいた子供たちや保護者の方からも大変好評で、「来年もまた来たい」「なかなかこういう機会がないのでありがたい」などの感想をいただき、企画を通じて部員たちも改めて「モノづくりの楽しさ」を味わえたと思います。これからも模型を通じて多くの子供たちに「モノづくりの楽しさ」を伝えていきたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。



武道部

建設工学課程 3年 谷 有 貴

私たち武道部では剛柔流空手道及び古武道の稽古を通じて心身の鍛錬を重ね、社会に貢献できる人間形成を目的として日々稽古に励んでいます。稽古は武道場にて毎週水曜日と土曜日に行っていますが、日常生活こそが修業の場であると考え日頃の研究、勉学を始めとし何事にも全力で取り組んでいます。

今年の 7 月 17 日 (日) には豊橋市民文化会館にて「武道部創部 10 周年記念演武会」を開催し、多くの方々にご来場頂きました。私たちが今回掲げたテーマは「魂」。演武会には日頃の稽古の成果を披露するだけでなく、演武をご覧頂いた方に少しでも元気になってもらうという目的もあります。そのためにも今までの演武会で最高のレベルを目指しました。

しかしなかなか思い通りにいくものではありません。高い所へ行こうとすればするだけ頂の高さを痛感するばかりです。そんな未熟な私たちですが今自分の持っている全力を出し尽くし「魂」のにじみ出た演武を披露すべく仕事や研究、勉強の合間を縫って稽古してきました。今まで武道部を支え、成長させて下さった多くの卒業生の方々も参加し 10 年間の歴史と「魂」がこもった演武会となりました。

お陰様で武道部は今年で 10 周年を迎えることができました。これまで武道部を支えて下さった多くの方々へこの場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。これからも焦ることなく武道という人間修行の道を一步一步確実に歩んで参りたいと思っております。



自動車研究部

機械システム工学課程 3年 白木 翔平

自動車研究部に支援していただき誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。この度はヘルメットとレーザープリンターを支援品としていただきました。これらの支援品につきましては今後の活動に有効に活用していきたいと考えております。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動しております。全日本学生フォーミュラ大会とは、学生が企画・設計・製作した小型レーシングカーで競技を行い、車の走行性能のほか、車両コンセプト・設計・コスト審査等のものづくりの総合力を評価する大会です。授業では学ぶことのできない経験をする事で自動車技術並びに産業の発展・振興に

資する人材を育成するという趣旨があります。

今年開催された第9回大会には私たちのコンセプトである「Basic for Perfect」に基づき旋回特性の向上・高パワーウエイトレシオ・操作効率の向上を迫及した車両で競技に臨みました。大会では全ての競技に参加することができましたが、最終競技であるエンデュランス中にリタイアするという悔しい結果となってしまいました。今大会の結果を十分に検討し、今後の車両製作に活かして次大会での上位進出を目指していきます。

皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けていきたいと思っておりますので今後とも応援よろしくお祈り申し上げます。



吹奏楽団

建設工学課程 4年 丹治 佑樹

この度は吹奏楽団にご支援を賜り、誠にありがとうございます。団員一同、心より深くお礼申し上げます。頂いた援助金では、シロフォンという楽器を購入致しました。

今年度、吹奏楽団は新入生13名を迎え、総勢52名で活動を行ってまいりました。毎年開催致しております当団定期演奏会をはじめ、本学入学式及び卒業式における祝賀演奏、他大学と合同で行う演奏会、オープンキャンパスや技科大祭など学校行事におけるステージパフォーマンスのほか、団の目標として掲げた「地域に根差す団」を目指し、近隣の商店や施設など、地域の皆様から頂いた演奏依頼にお答えし、少しでも音楽を楽しんで頂けれ



ばと思い演奏活動を続けてまいりました。

そうした活動を続けていく中で、いくつかの楽器に不具合が生じるという事態が発生してしまいました。今回購入致しましたシロフォンにつきましても演奏に難がある状態に陥っており、同窓会よりご支援頂き問題を解決できましたことを、心より感謝申し上げます。

今回ご支援いただいたこと、そして多くの方々に支えられて活動していることを忘れず、少しでも多く大学や地域のイベントに貢献できるように、団員一同精一杯活動を行っていきたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ラグビー部

電気電子情報工学課程 2年 根本 亜紀

この度は課外活動活性化経費にて、我々ラグビー部を支援して頂き誠にありがとうございます。ラグビー部部員一同、心よりお礼を申し上げます。援助金は、テーピングや氷のう、ラグビーボールの購入に使わせていただきました。テーピングはけがの防止に、氷のうはアイシングに使用させて頂いています。また、ラグビーの試合では各チームで1球ずつ新球を出さなければならないため今回のラグビーボールの援助はとても助かります。

現在ラグビー部は、修士12名、学部10名の計22人で活動しており、その活動内容としては、毎週火、木、土の3日にグラウンドで練習をしており、時には他大学や社会人のチームと練習試合をしています。そして、目的としては秋季に開催される東海学生ラグビーリーグに参加し現在所属しているCリーグからBリーグへの昇格を目指して部員が一丸となって練習に励んでいます。

昨年度のリーグ戦では、7チーム中4位という不本意な結果に終わってしまい、悔いの残る試合となりました。この文章を書いている今は今年度のリーグ戦の真ただ中なのですが、チーム一丸となり勝ちをつかみに行っています。先輩方への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進してまいります。今後ともご支援とご声援のほどよろしくお願い申し上げます。



同窓生への支援事業報告

現在同窓会では、同窓生相互の交流促進を目的として、皆様に参加される懇親会／パーティの開催を支援する事業を開始しております（支援内容等の詳細は39ページをご覧ください）。2011年度は、申請にもとづき、以下のご支援を致しましたのでご報告申し上げます。

豊橋技術科学大学関西支部同窓会

〈開催概要〉

実施日：平成 23 年 12 月 3 日

会 場：大阪市中央公会堂レストラン 中之島倶楽部

出席者：計 24 名

同窓生 23 名 (本学 旧建設工学系 卒業・修了生)

元技官 1 名



〈申請者からのコメント〉

去る平成 23 年 12 月 3 日に建設系の関西支部同窓会を開催しました。場所は昨年に引き続き辰野金吾氏設計の大阪市公会堂。ネオ・ルネッサンス様式の会場に、当日は 24 名の卒業生が集まり、美味しい食事を頂きながら一人一人に近況を語って頂きました。ご家族や仕事場でのお話に始まり、東北大震災でのご苦勞、同窓会の 1 週間前に行われた大阪ダブル選挙のお話まで。皆それぞれに身近に感じることを、ユーモアを交えてお話し頂きました。次回同窓会の幹事は、温品さん (5 期) と神田さん (6 期) にお願いしました。同じ場所で 12 月 1 日に行う予定です。連絡先がわからずご案内が難しい状況ですが、関西在住の方にかかわらず、皆さんのご出席をお待ちしております。



〈開催の様子〉





エレクトロニクス先端融合研究所



防災・日本再生シンポジウム